高１・高２ベーシックレベル現代文　はじめに

現代文の基礎力をつくるとはどういうことでしょうか。**現代文の基礎力をつくる**ためには、どういう学びをしたらよいでしょうか。実は、これは難題です。高校生がこれから大学受験をするために、あるいは専門学校や公務員試験を受けるために、または就職して社会で活躍するために、**〝母国語である現代の日本語の書き言葉〟**をきちっと読めるようになる、そのために必要な学習ガイドはどのようなものであったらよいのでしょうか。

児童書や小学生低学年向けの文章教材を山のように読めばよいのでしょうか。私はそうは考えません。**読み方のガイド**なしに、ただやさしい文章を読みちらかしても、自己流のくりかえしで、力にはなっていきません。そもそも児童書レベルでは、退屈するでしょうし、皆さんのプライドを傷つけることになるでしょう。

そこで、**プロの文章家が一般市民向けに書いた文章**で、**難しくはない**が**内容上、意外性があって面白いと思える文章**を素材に、**文章の読み方のガイドをする講座**をつくりました。

もちろん、設問もつけています。正しく読めたかをチェックする問題です。ごく一部は大学入試の問題ですが、ほとんどは、**この講座のためのオリジナル設問**です。また、文章の理解には知識も欠かせません。そのため、そうした言葉の知識について問う問題も入れてあります。さらに、「復習テスト」は漢字テストになっています。

文章を正しく読む技術の第一は、**書いてあることのすべてが筆者の意見ではないと知ること**、言いかえれば、**〈筆者の意見〉と〈筆者の意見ではないもの〉を区別すること、それらが会話・対話するように文章は進められるということを知ること**です。詳しくは映像授業のなかで説明します。

では、講義をはじめましょう。

ノートの取り方

テキストへの書き込みが基本です。**赤／青／緑**（黒板では緑ですが、第三の色であれば何色でもＯＫ）の**三色**をご用意ください。文章の対比を色分けして塗っていきます。主役キーワードが赤、敵役キーワードが青、脇役キーワードが緑です。

解法の手順

……文章（論説も小説も）は、すべて対比とその言い換えの連鎖からできている。そうであるならば……

少しでもはやく確実に読解するために

1　本文末の**書名＝タイトルをみる　→　テーマが判明**することが多い。さらには、「〇〇と△△」というようにいきなり**対比発見のてがかり**をくれることもある（現代文では、書名をつけることは多い。とくに共通テスト現代文では必ず記載されます！　論説では文章の終わりに、小説では冒頭に書かれるのが普通です）。

2　**設問の傍線部と問題文**をざっと読み、キーワードの見当をつける（**設問は本文のキーワードにかかわる**ことが多い）。タイトルの次は「キャスティング＝配役＝誰が出演するのか」に注目。本編の前に「エンドロール」を見てしまう感じです。ただし**選択肢まで読んではダメ**。五択で四つは誤りの選択肢なのだから、先に読むと歪んだ先入観ができてしまう。

3　**本文最後の数行をさきに**目を通し、テーマおよび結論、キーワードと対比の見当をつける。ドラマの最終場面、クライマックスを先に見てしまう感じ。とくに評論・論説で有効です。

4　**本文を冒頭から読み**、設問の傍線部にあたるたびに、選択肢を読み、その時点でしぼれるものはしぼる。ただし問いの約半数は全文を読みとおさないと解答できないから、読んでいる途中で判断できないものは先送りにする。

記述式問題解答へのガイドライン

１　**字数指定の八割以上**書くことがのぞましい（「五十字以内で説明せよ」という設問なら四十字以上書く）なお、指定字数の半分（五割）に満たない場合は、採点の対象とならないことが多い（つまり０点）

２　記述解答の採点は、**原則的に加点制（ポイント制）**（キーワード・キーフレーズごとに得点を与える。つまり、余分なことを書いたとしても減点はされないのが普通だから、字数の許す限り、重要と思った語句を記入してやる）

３　**誤字・脱字・略字**はそれぞれ１点減点（とくに略字は印象悪いよ！）

４　**「理由はなにか」「なぜか」**などの問いかけに対しては、「〜から。」「〜ので。」「〜ため。」など理由を示す語でしめくくる。そうでないと、１点減点。逆に、理由を求めている設問ではないのに「から」「ので」「ため」でしめくくると減点だよ。

その他解答欄・解答用紙に関する諸注意

a　| |人|間|は|…|　→　※**「原稿用紙」ではなく「解答欄」**だから最初のマスを空ける必要はない

b　|…|…|…|こ|と|　→　※**句点なし！**（１点減点）

設問文に「句読点も字数にかぞえる」とある場合、文末には必ず句点（。）をつける・句読点をかぞえるという指摘がない場合でも、「説明終わり」の印として句点（。）をつけるのが原則

ただし、「抜き出せ」という設問の場合は、当然本文のまま（余分なものは付けない）

c　|…|…|…|こ|と。|　→　※**句読点は一文字分！**（１点減点）

より本質的な記述問題への解答の仕方〈答案に盛り込むべき要素〉

○具体例は原則としてカット。よりまとまった表現を解答に盛り込むべし！
○対比の表現（AではなくBである）！
○繰り返し、言い換えられている表現は大事。ただし一本化！

抜き出し問題の諸注意

……「語」「語句」「一文」などと表記されているものの範囲について

○「語」＝「一単語」・「ワン＝ワード」・「一品詞」（ただし「一文字」とは限らないからね！）
○「語句」＝複数の単語もありうる。「語」よりも広い概念。「部分」と表記されることもある。
○「一文（文）」＝句点（。）で区切られるまとまり。

語 ⇐ 心身
語句 ← 心身の一体性

（例）心身の一体性、すなわち、身体が真に身体としてあるとき、身体は「外部」的ではない。この考察は、「道具」を見直す契機になる。

⇒ 一文・文

誤りの選択肢の典型例一覧　〈誤りに名前をつけられるほどのパターンがある！〉

1 対比混乱の誤り ……本文中で**対比・区別**されていることばを同種のものとして扱ってしまっている誤り。あるいは、主役キーワードの説明を求めている設問で、敵役キーワードを挙げている誤り。**キーワードのグループ分け失敗**の選択肢といってもいい。

2 同一性分断の誤り ……本文中で同種のことばを対比であるかのように扱ってしまっている誤り。これも**キーワードのグループ分け**失敗。**同質性分断**ともいう。

3 正しい対比喪失の誤り ……本文中で**「A⟷B」**という対比で記述されているのに、無関係な「C」という要素を勝手にもちこんだり、**「C⟷D」**といった本文にない対比をもちこんでいる誤り。例えば、本文は**「善⟷悪」**という対比で書いているのに、「美」や「醜」という無関係な対比をもちこみ、本文の正しい対比を見失っている誤り。

4 不当な全称判断 ……本文中の記述がないのに、**「すべての○○は」「あらゆる○○は」**と勝手に拡張している誤り。類似した誤りとして**不当な一般化**があります。例えば本文では「バラ」という個別のものに焦点を当てているのに、「花というものは」などと拡張している誤り。

5 不当な限定判断 ……本文中の記述がないのに、**「○○のみ」「○○だけ」**と勝手に縮小してしまっている誤り。類似した誤りとして**不当な矮小化**（わいしょう）があります。例えば本文では「人間関係全般について」書いてあるのに、「近所づきあい」の次元を書いている選択肢。話を不当にちっぽけにしているわけです。

6 不当な価値判断 （不当な当為判断（とうい））……本文では「○○である」「○○だ」という事実判断をしているのに、**「○○であるべきだ」「○○にしなければならない」「○○する必要がある」**と勝手に改変してしまった誤り。またAとBの特徴の比較をしているだけなのに、**Aのほうが優れているといった優劣を持ち込んだ**選択肢の誤り。特に論文を読んだり書いたりする上で、「事実判断と価値判断（当為判断）」との違いには気を遣う必要があるんだよ。

7　**部分的指摘の誤り**……本文中では、**「AとともにB」「Aと同時にB」「AしかもB」**と追加表現がなされているのに、「A」だけ、あるいは「B」だけを扱ってしまっている誤り。本文の記述にまったく反しているわけではないため、「高度な」誤りといえます。こういうものに気づけるようになることが、現代文での高得点のカギだよ。

8　**記述に反する誤り**……文字通り、本文中の記述に真っ向から反する選択肢。例えば本文では「AはBである」としているのに「AはBではない」としている誤り。

9　**記述なし**……文字通り、本文中の記述にはいっさい書いてない内容を勝手にのせている選択肢。ただし、「本文の記述に反しているものを選びなさい」といった間違い探しの設問のとき、本文には書いてないだけで、間違いとはいえないということがあるから注意。つまり、「誤り」としては1～8・10～13のほうが深刻な誤りといえ、そちらを優先する。

10　**文脈喪失の誤り**……文章中で特定の意味づけをして使っていることばを、**文脈外の「常識」や辞書的な意味**で扱ってしまっている誤り。例えば、「飛躍」ということばを、本文は「行き過ぎ」「誤解」という意味付けをして記述しているのに、勝手に「発展」「前進」というようにとらえてしまっているもの。

11　**物理的スリカエの誤り**……**心理や気持ちを問うている設問で、物理的に説明している選択肢。**小説問題の選択肢としてよく出ます。例えば「暗い気持」を天候や日照量の説明にしてしまっている誤り。

12　**比喩を文字通りに解釈した誤り**……本文中で、たとえになっている表現（擬人法もふくむ）を文字通りにとってしまった選択肢の誤り。比喩は立派な表現技法です。これをリアルに解釈するとずいぶんおかしなことになります。例えば「いやー、歩きつかれちゃって、膝（ひざ）がわらってるよ」なんて表現があるけど、ホントに笑ったら怖い！

13　**具体例は、一段、落ちる**……具体例を挙げている選択肢は、「最も適当」な選択肢を選ぶ際には、選びたくない（ガクっと正解候補から落ちるイメージ）。もっとまとまった語句を盛り込んでいる選択肢が正解になる。

予習の仕方……**第五講**（ベーシック現代文の中間試験）と**第八講**（ベーシック現代文のゴール）のみ**予習**（映像授業を視聴する前に、自力で文章を読み、設問に解答）しましょう。その後、映像授業の解説を視聴して答え合わせをしてください。この**第五講・第八講以外は予習なし**です。いきなり映像授業を見てください。講義中にガイドします。そのガイドに従って、「では、ここでこの問題にアタックしてください」といったアナウンスがあったら、映像を止めて問題に取り組みましょう。答えが決まったら、映像を再開してください。

復習の仕方について……各講には「復習テスト」が付いていて**漢字テスト**になっています。各講で使用した文章に登場した漢字のテストです。これに対応するために、映像授業の各講を視聴した後、みなさんはその文章を読み直してください。解答・解説ページについている**《本文の対比構造》**も見たうえで、文章をもう一度読みましょう。その中に出てくる重要漢字が復習テストになっています。**文章の内容理解を深めながら、どの漢字が出そうかも考えつつ、よ～く読んでください。**

評論の文章に出てくる漢字がわかるという知識はたいへんに重要です。文章理解を助けてくれるものになります。したがって、これが復習になります。

映像授業内で解説した設問について、もう一度解答し直すというタイプの復習は、現代文学習としてはあまりオススメできません。同じ問題を解き直すのではなく、次々と新しい文章問題にアタックしていくほうがよいです。スタディサプリでは数多くの現代文講座を用意しています。これらにアタックしましょう。

二〇〇字要約のガイドライン

１　原文の**対比**をくみとる記述にする（「～Aではなく、Bである」「一方はAであり、他方はBである」「一般にはAと考えられがちだが、実はBである」など）。

２　**具体例**は原則として捨象（しゃしょう）（カット）する。

３　比喩的表現よりも**明示的・説明的表現**をひろう。繰り返し、言い換えられている表現は大事。ただし一本化。

４　**短文に切って、接続語でつなぐ**。文相互の関係を明確にする。**「そして」は、できるだけ使用しない**。仮に原文中で「そして」が使われていても、要旨をまとめる要約では、使用しないほうがいい。

５　原文を知らない人が読んでも意味の通る内容にする。

６　筆者に成り代わって、内容自体を書く。したがって、**「筆者は～と言っている」といった表現は不要**。

７　原文の流れ通り（冒頭からの順番通りキーワードを出す）でもよいですが、**最重要のメッセージ、一番大事と考えられる対比箇所**を最初にバーンともってくるまとめがオススメです。

おすすめの問題集

『マーク式基礎問題集・現代文・改訂版』（河合出版）
『マーク式総合問題集・国語』（河合出版）……「全統マーク模試」を収録したもの
『はじめての共通テスト対策　国語』エデュケーショナルネットワーク編（Z会）……試行調査２回分＋オリジナル２回分から成り、古文や漢文も含みます。マークシートや記述解答用紙も付属。
『Z会・現代文のトレーニング』（増進会出版）……「入門編／必修編／小説編／記述編／私大編」がそれぞれあります。
『ハイスコア！共通テスト攻略　国語　現代文』Z会編集部（Z会）……〈参考書＋問題集〉、〈マーク式＋記述式〉、〈センターの過去問題＋試行試験問題＋オリジナル〉など、それぞれの要素を盛り込んでいます。現代文のみです。
『入試現代文へのアクセス』（河合出版）……「基本編／発展編／完成編」があります。

おすすめの用語解説集

『読み解くための現代文単語』（シグマベスト・文英堂　小柴大輔　編著）

おすすめの参考書

『小柴大輔の一冊読むだけで現代文の読み方&解き方が面白いほど身につく本』（KADOKAWA）

教材選定について

- 各テーマ（学問論・文学論・芸術論など）の読書資料になる価値の高い文章をセレクト
- それぞれの学問界を代表する筆者の文章をセレクト
- 設問は一部をのぞき、本講座のためのオリジナル。

目次

ファーストステップ

第一講　グループ分けして読む
その１《評論》テーマ「芸術論」……p. 11
その２《評論》テーマ「学問論」……p. 14

第二講　グループ分け＋言いかえの連続に注目
その１《評論》テーマ「身体の哲学」……p. 17
その２《評論》テーマ「服の文化」……p. 20

セカンドステップ

第三講　言いかえの連続に注目（随筆編）
その１《随筆》テーマ「人間の背中」……p. 24
その２《随筆》テーマ「子供の心理」……p. 27

第四講　選択肢への対応
その１《評論》テーマ「文学論・俳句論」……p. 31
その２《評論》テーマ「写真論」……p. 34

ベーシックレベル現代文の中間試験

第五講　ここまでの成長確認
《評論》テーマ「漫画と社会・マンガとアメリカ」……p. 38

サードステップ

第六講　長めの文章をグループ分け
その１《評論》第一講　その１の続き……p. 45
その２《評論》テーマ「認識論」……p. 50

第七講　長めの文章で言いかえに注目
その１《評論》第二講　その１の続き……p. 55
その２《評論》第三講　その２の続き……p. 58

ベーシックレベル現代文のゴール

第八講　実力確認の問題
《随筆》テーマ「哲学　自己と他者」……p. 65

第一講　グループ分けして読む

その1《評論》テーマ「芸術論」

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

ふつう、絵をほめるばあい、まず、「うまいもんですな」とか、「きれいだわ」とか、「気持がいい、なんてたのしいんだろう」とか言ったりします。ところで、新しい絵にたいしては、どうですか。これにも、いろいろあって、モダニズムのところでお話ししたように、わからないけれどもきれいだ、とか、なにかわからないが気持がいい、というような絵もありますが、そのほかに、どう見てもきれいだと思えないし、うまいとも考えられない、まして、ここちなどみじんもよくはない。つまり絵として、ひっかかりようがない。今までの鑑賞（かんしょう）法では、どうにもかなわないという絵がかなりあるでしょう。いったい、こんなものに、どこに価値があるのか、とお考えになることがあると思います。

ところが、このように、今までそれなしには「すぐれた芸術」とはいえないとされていた絶対の条件がなにひとつなくて、しかも見るものを圧倒し去り、世界観を根底からくつがえしてしまい、以後、そのひとの生活自体を変えてしまうというほどの力をもったもの、――私はこれこそ、ほんとうの芸術だと思うのです。

では、ほんとうの芸術は、なぜここちよくないのでしょうか。さきほどからお話ししているように、すぐれた芸術には、飛躍的な創造があります。時代の常識にさからって、まったく独自のものを、そこに生み出しているわけです。そういうものは、かならず見るひとに一種の緊張を強要します。

なぜかと言いますと、見るひとは自分のもちあわせの教養、つまり絵にたいする既成（きせい）の知識だけでは、どうしてもそれを理解し判断することができないからです。そこには、なんとなくおびやかされるような、不安な気分さえあります。

たとえば、富士山の絵とか、きれいな裸体画、静物画などならば、見なれている――つまり、今までそういうものを、なんども見て知っているから、すうっとそのまま、その世界にひたることができます。なにも努力しないですむ、はなはだ気分がよいわけです。ところが、創造的な芸術には、けっしてそういう安心感がありません。

（岡本太郎『今日の芸術』）

問１　次の語群について、筆者が肯定的に使っている表現にはA、そうではない表現にはBと記しなさい。

①　うまい　②　気持がいい　③　たのしい　④　わからないけれどもきれい
⑤　今までの鑑賞法　⑥　世界観をくつがえす　⑦　時代の常識　⑧　緊張
⑨　もちあわせの教養　⑩　不安な気分

第一講　その１　知識モノ解説

文学史・人物解説

●筆者　岡本太郎＝おかもと　たろう（一九一一〜一九九六年）神奈川県生まれ。慶應義塾普通部卒。東京美術学校（東京芸術大学）中退。「芸術は爆発だ」などのことばも有名な画家、立体造形の作家。

語句

モダニズム→近代主義
アヴァンギャルド→フランス語で、伝統を打ち破る前衛。英語のアドヴァンス

第一講　グループ分けして読む

その2《評論》テーマ「学問論」

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らず」といえり。（中略）されども今広くこの人間世界を見渡すに、かしこき人あり、おろかなる人あり、貧しきもあり、富めるもあり、貴人(きじん)もあり、下人(げにん)もありて、そのありさま雲と泥との相違あるに似たるは何(なん)ぞや。その次第(しだい)、はなはだ明らかなり。『実語教(じつごきょう)』に、「人学ばざれば智なし、智なき者は愚人(ぐじん)なり」とあり。されば賢人(けんじん)と愚人との別は、学ぶと学ばざるとによりて出来(でき)るものなり。また世の中にむずかしき仕事もあり、やすき仕事もあり。そのむずかしき仕事をする者を身分重き人と名づけ、やすき仕事をする者を身分軽き人という。

（福沢諭吉(ふくざわゆきち)『学問のすすめ』）

問１　筆者の主張として最も適当なものを次の中から選び記号で答えなさい。

①　人間は生まれながらに平等で人に上下の差はない。
②　人間には生まれながらに富豪や貧者などの上下の差がある。
③　人間には賢者と愚者の区別がもともと最初からある。
④　人間の差異は学ぶかどうかによってできてくる。
⑤　人間には勉強しなかったためむずかしい仕事をする者がいる。

第一講　その2　知識モノ解説

文学史・人物解説

●筆者　福沢諭吉＝ふくざわ　ゆきち（一八三五～一九〇一年）中津藩（なかつ）（現在の大分県）の藩士の家に生まれる。慶應義塾の創立者。一九八四年から一万円札の顔。主著『文明論之概略（ぶんめいろんのがいりゃく）』。『学問のすすめ』は、一七編から成り、各編二〇万部、合計三四〇万部という超ベストセラーだったそうです。

○『実語教』→庶民向けの道徳や教訓の書。起源は平安時代末期ともいわれる。江戸時代の寺子屋ではお習字や修身（道徳）の教科書として使われた。

語句

次第＝しだい→いきさつ、事情、成り行き、理由のこと

復習問題　第一講

次の傍線部にあたる漢字を、次の選択肢から選びなさい。

（ア）今までの絵画のカン賞法は通用しない。　①干　②鑑　③感　④緩　⑤管
（イ）見るものを圧トウするような作品だ。　①当　②唐　③倒　④頭　⑤踏
（ウ）芸術といえる絶タイの条件を満たしている。　①対　②体　③隊　④耐　⑤態
（エ）考え方や世界カンを根底からくつがえす。　①感　②冠　③間　④勘　⑤観
（オ）発想が飛ヤク的に前進していく。　①約　②役　③訳　④躍　⑤薬
（カ）まったく新しい芸術をソウ造する試みだ。　①創　②想　③宗　④壮　⑤荘
（キ）絵に関するキ成の知識を捨て去る。　①規　②既　③期　④機　⑤記
（ク）新しい芸術に対面するときは緊チョウする。　①超　②調　③長　④帳　⑤張
（ケ）従来の教養を捨てることを強ヨウする。　①用　②洋　③要　④養　⑤陽
（コ）裸体画やセイ物画が展示されている。　①製　②生　③静　④聖　⑤晴

第二講　グループ分け＋言いかえの連続に注目

その１《評論》テーマ「身体の哲学」

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

なにか少年や少女の事件が起こるたびに、こころのケアやこころの教育がどうのといった声があがるが、わたしはすぐにはそういう発想がとれない。ちょっと乱暴かもしれないが、お箸（はし）をちゃんともてる、肘をついて食べない、顔をまっすぐに見て話す、脱いだ靴を揃（そろ）えるなどということができていれば、あまり心配はないのではないかと思ってしまう。あまのじゃくなわけではないが、とりあえず、ごはんはかならずいっしょに食べるようにしたら、と言ってみたくなる。なにか身体が憶（おぼ）えた智恵や想像力、身体で学んだ判断を信じたいと思うのだ。

瀬戸内寂聴（せとうちじゃくちょう）さんは、ある地方新聞に載った「躾（しつけ）はあって当然」という文章のなかで、こんなふうに書いていらっしゃった。「私の父親は小学四年しか学歴のない職人だった。四、五歳の私が仕事場を通る時、つい道具のカンナやノミをまたいだら、だまってかね尺（金属製のものさし）が飛んできて私の脚を払った。そうされて私は父の仕事は立派なものなのだなと思った」からだで憶える規範（きはん）や原理が確実にある、そんな時代があったのだ。いま、わたしたちのまわりでは世代の交替（こうたい）ということがうまくなりたたなくなっている。少なくとももの考えや感受性において世代差というのが見えにくくなった。いや、それよりも世代という観念じたいがうまくなりたたなくなったと言ったほうがいいかもしれない。現にわたし自身が世代などというものをあまり信じていない。

文化には、ひとの生を象（かたど）る型というものがある。生に形をあたえる型というものがかならずあるはずだった。若いときの反撥（はんぱつ）や抵抗も、たいていはこの生の社会的な型に対してなされてきた。が、そういう型がいまはとても見えにくく、感じにくくなっているような気がする。生の基本、生のベーシックスにかぎって、こんなこと言わなくても分かると思ってたことが、じっさいには他人に伝わりにくくなっているような感触がある。

（鷲田清一（わしだきよかず）「悲鳴をあげる身体」プロローグ）

問１　次の語群について、筆者が肯定的に使っている表現にはA、そうではない表現にはBと記しなさい。

①　こころのケアやこころの教育

②　身体が憶えた智恵や想像力

③　からだで憶える規範や原理

④　顔をまっすぐに見て話すこと

⑤　生に形をあたえる型

第二講　その１　知識モノ解説

文学史・人物解説

●筆者　鷲田清一＝わしだ　きよかず（一九四九～）京都府生まれ。京都大学文学部卒、同大学院博士課程修了。前大阪大学学長。日本を代表する哲学者。朝日新聞朝刊の連載「折々のことば」の筆者。

○瀬戸内寂聴＝せとうち　じゃくちょう（一九二二～）徳島県生まれ。東京女子大学国語専攻卒。作家、僧侶。

語句

あまのじゃく＝天の邪鬼→ひねくれもの。人の意見や忠告に従わないこと

躾＝しつけ→礼儀作法を身に付けさせること

規範＝きはん→ルール。守るべきもの。判断や行為の基準となるもの

観念＝かんねん→考え方・発想

第二講　グループ分け＋言いかえの連続に注目

その2　《評論》　テーマ「服の文化」

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

服装というものは、人間の社会生活のなかでもっとも単純、明快で、しかもしばしば忘れられがちなコミュニケイションの媒体（ばいたい）である。じぶんが誰であるかをみずから表現し、同時に他人につたえるために、身につけている衣服はきわめて有効な手段なのだ。ことばをつかって、人間どうしがなにかをつたえあうというのは、コミュニケイションの方法として一般的だけれども、A<u>ことばだけが意志をつたえあう媒体なのではない</u>。ある人間が身につけているものをみて、その人間が何者であるかが［B］にわかるとすれば、衣服はその人間の社会的な位置づけを無言のうちに語る媒体なのである。卑近（ひきん）な例でいうなら、ホテルその他のサービス業の場合、お客の服装をじろりと一べつするだけでそのお客のC<u>氏素姓</u>がわからなければ一人まえでないという。服装は、それじたいなにかを「語る」のだ。

まず、基本的には服装は［D］を語る。西洋で、男がズボン、女がスカート、というのは、中世のゲルマン民族にはじまったものといわれるが、着ているもので男か女かがわかる。そしてルネッサンス期をむかえると、男はますますその男らしさを、女は女らしさを服装によって語らせることをかんがえはじめた。性の強調によって、男と女の服装は、ぐんときわだってちがいのあるものになった。ギリシャ、ローマ時代の風俗では、男女の服装の差があまりなかったのと、それは対照（たいしょう）的である。

しかし、近世以後の社会では、服装はしばしばそれを着ている人間の［E］を語った。それがいちばんはっきりと制度化されたのは軍服である。どこの国でも、軍人というのは戦場でたたかうことをその職業としており、そこでは敵味方の区別をつける必要があり、さらに味方どうしの内部でも上官、兵卒（へいそつ）の区別がつかなければならない。着ているものがはっきり見わけがついてはじめて戦闘もできるし、軍隊の統制もとれる。みんながかってな服装をしていたら、戦争なんかできっこないではないか。

（加藤秀俊（かとうひでとし）の文による）

問１　傍線部Ａに見合う成語として最適なものを次より選べ。

①　目は口ほどに物をいう　②　壁に耳あり障子（しょうじ）に目あり　③　人の噂（うわさ）も七十五日　④　死人に口なし

⑤　顔で笑って心で泣いて　⑥　沈黙は金　⑦　言葉多きは品（しな）少なし

問２　空欄［Ｂ］に最適な語句を次より選べ。

①　一瀉千里（いっしゃせんり）　②　簡単明瞭（かんたんめいりょう）　③　一目瞭然（いちもくりょうぜん）　④　以心伝心（いしんでんしん）　⑤　一視同仁（いっしどうじん）

問３　傍線部Ｃの漢字の読みを平仮名（現代仮名遣い）で記せ。

問４　空欄［Ｄ］・［Ｅ］に最適な語句を次より選べ。

①　時代　②　職業　③　民族　④　性別　⑤　権力　⑥　地位

第二講　その2　知識モノ解説

文学史・人物解説

●筆者　加藤秀俊＝かとう　ひでとし（一九三〇～）東京都生まれ。一橋大学卒。社会学者、メディア論研究者。

語句

媒体＝ばいたい→伝達の手段。仲介になるもの。メディア
卑近＝ひきん→身近でわかりやすいこと
一べつ＝一瞥＝いちべつ→ちらっと見ること
風俗＝ふうぞく→ある時代や社会の生活習慣や習わし
対照的＝たいしょうてき→違いがあること。対比的。コントラスト
兵卒＝へいそつ→最下級の軍人
統制＝とうせい→まとめること。制限しつつコントロールすること

復習問題　第二講

次の傍線部にあたる漢字を、次の選択肢から選びなさい。

（ア）私は決めつけたような発ソウをしません。
① 総　② 相　③ 創　④ 想　⑤ 送

（イ）身体で憶えたハン断を大切にする。
① 反　② 半　③ 判　④ 犯　⑤ 飯

（ウ）社会には守るべき規ハンがある。
① 犯　② 範　③ 藩　④ 版　⑤ 凡

（エ）社会の決まった枠組みにテイ抗する。
① 低　② 停　③ 邸　④ 底　⑤ 抵

（オ）時代が変化したという感ショクがある。
① 触　② 職　③ 植　④ 色　⑤ 拭

（カ）服装は単ジュン、明快にその人物を語る。
① 順　② 準　③ 潤　④ 純　⑤ 巡

（キ）服装はコミュニケーションのバイ体である。
① 倍　② 媒　③ 賠　④ 謀　⑤ 某

（ク）時代や地域によって風ゾクや習慣は変わる。
① 属　② 続　③ 族　④ 足　⑤ 俗

（ケ）日本文化と欧米文化はこの点で対ショウ的だ。
① 称　② 象　③ 照　④ 焦　⑤ 症

（コ）命令をはっきりさせて軍隊のトウ制をとる。
① 党　② 頭　③ 棟　④ 東　⑤ 統

第三講　言いかえの連続に注目（随筆編）

その１　《随筆》　テーマ「人間の背中」

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

待ち合わせ場所にすでに相手が到着していて、しかもそのひとが後ろ向きに立っていたような場合、一瞬、どんなふうに声をかけようかと、迷いながら［Ａ］からそのひとに近づいていく。

前からだったら、目と目があえば、それで済(す)む。待った？　久しぶりね、さあ、行こう——会話は船のように自然と進む。ヒトの無防備な背中を前にすると、なぜか言葉を失ってしまう。つきあってきたのは、どのひととも、彼らの［Ｂ］ばかりのような気がして、Ｃ心もとなく、背中を眺めやる。

そのひとが、Ｄくるっと後ろを振り向けば、ただちにわたしは、そのひとの世界に合流できるのに、後ろ姿は、閉ざされた扉(とびら)だ。

そのままわたしが行きすぎれば、そのひととわたしは永遠に交わらないまま、これを最後に別れてしまうかもしれない。

待ち合わせの約束を、一方的に破棄(はき)するのだから、これは裏切りだが、出会うことは常におそろしい衝突(しょうとつ)でもあるから、衝突をさけて、ひとの背後を、ひたすら逃げ続けるという生き方もある。例えば、犯罪者か逃亡者のように。

そういう考えが、ひとの背を見ながら、わたしのなかにＥひょこっと現れる。そのことはわたしを、少し驚かす。わたしは何かを恐れている。

そもそも背中は、そのひとの無意識が、あふれているように感じられる場所である。だから、誰かの後ろ姿を見るとき、見てはならないものを見たようで、Ｆ後ろめたい感じを覚えることもある。

（小池昌代(こいけまさよ)「背・背なか・背後」）

問１　空欄［Ａ］・［Ｂ］にあてはまる語句として最も適当なものを、それぞれ次の中から選び記号で答えなさい。

①　側面　　②　正面　　③　背後　　④　一定の距離　　⑤　仮の姿

問２　傍線部Ｃ「心もとなく」の意味の説明として最も適当なものを次の中から一つ選び記号で答えなさい。

①　気のおけない、遠慮のいらない状態。　　②　たよりなく、何か不安な状態。

③　気にかかることがない状態。　　④　気持ちが焦ってあわてる状態。

問３　傍線部Ｄ「くるっと」Ｅ「ひょこっと」のような表現技法をなんというか、最も適当なものを次の中から選び記号で答えなさい。

①　擬人法（ぎじん）　　②　擬態語（ぎたい）　　③　倒置法（とうち）　　④　直喩法（ちょくゆ）

問４　傍線部Ｆ「後ろめたい」の意味の説明として最も適当なものを次の中から選び記号で答えなさい。

①　罪悪感をふりはらうときの積極的な気持ち。

②　自分が悪いことをしているかのような気持ち。

③　相手を後ろから攻撃するときの意地悪な気持ち。

④　相手の後ろ姿に親近感をいだくときの気持ち。

第三講　その１　知識モノ解説

文学史・人物解説

●筆者　小池昌代＝こいけ　まさよ（一九五九〜）東京都生まれ。津田塾大学国際関係学科卒。詩人。

語句

無防備＝むぼうび→危険に対するそなえがないこと
心もとない＝こころもとない→頼りなくて不安なこと
後ろめたい＝うしろめたい→自分が悪いことをしているような感じになること。気がとがめること
破棄＝はき→破り捨てる・取り消すこと。他に、約束を破ることを「反故（ほご）にする」という

第三講　言いかえの連続に注目（随筆編）

その2《随筆》テーマ「子供の心理」

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

むくむくと着ぶくれしてベビーカーにおさまっている赤ん坊が、どうもいま一声発したらしい。「アアアア」と、ただのわめき声ではあるけれども、しかしその母音のつらなりには彼の胸のうちから外部に向かって発信されたメッセージ性が明確に宿っていた。それは、「いま走り去った電車、強烈にかっこよかったなあ！」という思いを伝える、一個の立派なせりふなのだった。

日が落ちかけた晩秋の夕刻、家の近所の踏切前でのできごと。遮断された踏切前で静かに待っていたぼくら二人の眼前を、夕闇の中から現われた光り輝く急行列車が一気に駆け抜けていく。その轟音と風圧を小さな体全体で受けとめた乳児は、列車を見送りながら感激の念を抑えきれず、くだんの一声をほとばしり出させたわけだった。前にも記したとおり、彼の口から最初に出た意味のある単語は飼い猫の名「ココ」だったが、しかし家の外で、目の前の刺激に対して直接に応答した初の言葉は、この「アアアア」だったと僕は思っている。井の頭線の急行列車が、一歳少し前の乳児を言葉の世界へと力強く誘った。

ジャック・ラカン博士のいわゆる「鏡像段階」に続いて（あるいはそれと並行して）、赤ん坊は自我の形成においてもう一つ、重要な段階を経る。「［A］段階」ないしは「［B］段階」がそれだ。精神分析事典等にはいまだ採録されていない術語ではあるが、少なくともうちの赤ん坊を通し十分に観察したところでは、赤ん坊はまず電車を始めとする大型乗り物を介して社会に目を開き、そこにあふれるパワーとエネルギーに強い憧れを抱く。やがて電車を運行する重責を担うのが運転士と呼ばれる存在であることを知ると、激しい畏敬の念を「運転士さん」（＝うんてんちゃん）に注ぎこみ、たちまち自らを「運転士さん」と同一化するにいたる。運転士さんと化した赤ん坊は以後、自らの日々の暮らしをことごとく鉄道関係用語によって言説化するようになり――［C］何であれずっこけることはすべて、きかんしゃトーマスにならって「脱線（＝だっちぇん）だあー」と表現される、等々――、自分もまた周囲から「運転士さん」として遇されることを望み、喜ぶようになる。かくして赤ん坊は言葉と社

会性に目覚め、擬似運転士さんとして自己形成していくのである。

（野崎歓『赤ちゃん教育』）

問１　空欄 A ・ B に入る組み合わせとして最も適当なものを次の中から一つ選び記号で答えなさい。

①　A　電車　　B　乗り物
②　A　自動車　B　乗り物
③　A　ベビーカー　B　自動車
④　A　乗り物　B　自転車

問２　空欄 C に入ることばとして最も適当なものを次の中から選び記号で答えなさい。

①　けれども　②　さらに　③　たとえば　④　したがって　⑤　なぜなら

第三講　その2　知識モノ解説

文学史・人物解説

●筆者　野崎歓＝のざき　かん（一九五九〜）新潟県生まれ。東京大学文学部フランス文学科卒。翻訳家、エッセイスト、東京大学大学院人文社会系研究科教授。本書『赤ちゃん教育』で講談社エッセイ賞受賞。他の著書『翻訳教育』など。

○ジャック・ラカン（一九〇一〜一九八一年）フランスの精神分析学者。

語句

くだんの＝件の→前述したことを読者に指し示すことば。例の、さっきの

鏡像段階＝きょうぞうだんかい→子供の発達で、鏡に映る自分の姿を気にするようになったり、そこに映っているのが自分だとわかる段階

術語＝じゅつご→専門用語。専門的な記述用語。テクニカル・ターム。主語、述語というときの述語とは違うから注意

畏敬＝いけい→偉大なものとしておそれうやまうこと

遇される＝ぐうされる→あつかわれること、対応してもらうこと

疑似＝ぎじ→本物ではない仮想のもの

復習問題　第三講

次の傍線部にあたる漢字を、次の選択肢から選びなさい。

（ア）待ち合わせ場所にトウ着する。　①倒　②到　③統　④塔　⑤陶

（イ）相手に無防ビな背中を向ける。　①備　②微　③尾　④眉　⑤鼻

（ウ）約束を一方的に破キする。　①機　②棄　③危　④企　⑤鬼

（エ）自動車が正面からショウ突する。　①衡　②翔　③鍾　④昇　⑤衝

（オ）都市のハン罪発生を抑止する。　①反　②氾　③斑　④犯　⑤範

（カ）急行電車が強レツにかっこいい。　①列　②劣　③裂　④烈　⑤焦

（キ）すばらしい出会いに感ゲキする。　①激　②劇　③撃　④檄　⑤逆

（ク）定時の電車運行の重セキを担う。　①席　②籍　③責　④積　⑤績

（ケ）憧れの運転士にイ敬の念を抱く。　①意　②威　③畏　④偉　⑤異

（コ）飛行機の操縦を擬ジ体験する。　①自　②似　③事　④持　⑤時

第四講　選択肢への対応

その１　《評論》　テーマ「文学論・俳句論」

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

鶏頭(けいとう)の十四五本(じゅうしごほん)もありぬべし　　正岡子規(まさおかしき)

この句を支えているものは、純真無垢(むく)の心の状態が摑(つか)み取った一小宇宙の明瞭(めいりょう)な認識であって、そこには何の混乱も曇(くも)りもない。十四五本の強健頑丈(きょうけんがんじょう)な植物の群立が病子規の消えなんとする生命を圧倒すると西東三鬼(さいとうさんき)（俳人　一九〇〇～一九六二年）は言う。これは「自己の生の深処(しんしょ)に触れた」という誓子(せいし)（山口誓子。俳人　一九〇一～一九九四年）説の延長の上に述べられたもので、面白い意見だが、死までにまだ三年を余す子規をあまりに瀕死(ひんし)に追いこんでいるきらいがある。むしろ面白すぎる説である。「あわれ、鶏頭は十四五本もあるであろうか」と言う誓子があまりに病者の感傷にもたれすぎているのと同じように、三鬼も病者の論理を前提に置きすぎている。だが僕がこの句から受け取るものは、反対に健康さそのものであり、死病の床にあってなお生きよう凝視(みつ)めよう描こうと願うたくましい意志だ。無骨(ぶこつ)に強健を誇る鶏頭に、子規の生命は圧倒されてもおびやかされてもいないし、まして狂っても混乱してもいないのである。むしろそのたくましさに子規の生命は憑(の)り移っている。両者がたがいに映発(えいはつ)し合って一体なのだ。それが子規の句の無邪気(むじゃき)さであり、健康さであり、たくましさなのだ。誤解を怖(おそ)れないで言ってみれば、子規の身体の状態は、この句になんらの決定的な影響を及ぼしてはいないのである。

（山本健吉(やまもとけんきち)「俳句の世界」）

問１　傍線部「子規の身体の状態は、この句になんらの決定的な影響を及ぼしてはいないのである」とあるが、筆者がそのように考えた理由として最も適当なものを、次のうちから一つ選べ。

① 子規の病状はほぼ安定しており、鶏頭との精神的一体化は、実際の病状とは無関係になされたといえるので。
② 子規が鶏頭と一体化し、鶏頭の健康な生命力を表現しえたのは、病状のよしあしと直接には関係ないので。
③ 子規が病床にあったことは事実だが、鶏頭と見事に一体化することによって、病気を忘れることができたので。
④ 子規が精神的に鶏頭と一体化しえたのは、すでに死を覚悟し、病気とは無縁の境地に到達していたので。
⑤ 俳句はもともと、作者の身体の状態とは切り離されたところに成立するものであり、病気などとは無関係なので。

第四講　その１　知識モノ解説

文学史・人物解説

●筆者　山本健吉＝やまもと　けんきち（一九〇七～一九八八年）長崎県生まれ。慶應義塾大学文学部国文学科卒。文芸評論家。

○正岡子規＝まさおか　しき（一八六七～一九〇二年）今の愛媛県生まれ。東京帝国大学国文科中退。俳人、歌人、文芸評論家。その作品は、写真のスナップショットみたいに対象をそのままとらえた「写生句」「写実の俳句」と評されることが多い。

○西東三鬼＝さいとう　さんき（一九〇〇～一九六二年）俳人。

○山口誓子＝やまぐち　せいし（一九〇一～一九九四年）俳人。

語句

鶏頭＝けいとう→花の名前。ニワトリのとさかのような花を付けるヒユ科の植物

純真＝じゅんしん→心が清らかであること。邪心（じゃしん）がないこと

無垢＝むく→心身に汚（けが）れがないこと。純粋なこと

きらい＝嫌い→好ましくない傾向があること

無骨＝ぶこつ→みがかれていない荒々しさ。ごつごつした感じ。武骨とも書く

映発＝えいはつ→光や色彩が映りあうこと。影響しあうこと

無邪気＝むじゃき→悪意がないこと。子供のようにあどけなくかわいいこと

第四講　選択肢への対応　その2《評論》テーマ「写真論」

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

一九四〇年頃、ニューヨークでひとりの写真家が妙（みょう）なことを思いついた。その名をウォーカー・エヴァンスという。中西部に生まれ、パリに留学したこともあるエヴァンスは、特にアメリカ中西部の貧困地域を撮影したことで知られる。アメリカのドキュメンタリー写真に大きな影響を与えたひとりとして知られるが、その彼がニューヨークの地下鉄にカメラを隠して乗り込み、目の前に座る乗客にむかってひそかにシャッターを切ったのだ。今日『サブウェイ・フォトグラフス』として知られるこの写真は、撮影後二〇年あまりのあいだ写真家のアトリエに眠り続け、一冊の写真集として<u>日の目を見た</u>(A)のは一九六〇年代のはじめだった。なぜかくも長いあいだ発表されなかったか、その理由は明らかでないが、<u>写真家の意図</u>(B)（いと）はいくつかの文章で伝えられている。地下鉄のなかに乗ってくる人々という被写体（ひしゃたい）の偶然性、そして撮影側の動きがほとんど介在しないという、一種の自動性に興味をもって撮影したらしいのである。

エヴァンスはそれまでキューバやアメリカ南西部といった、広い領域を対象にした写真家である。それにひきかえ地下鉄という閉鎖空間の誰が前に座るかわからないという状況は、自由度という点で［　C　］な撮影条件だろう。しかもファインダーを覗（のぞ）くことなく相手に気づかれずに撮らなければならないのだから、控（ひか）えめながら完璧（かんぺき）な構図を常とした写真家にとっては、自ら拘束（こうそく）を課したともいえるような作業になる。

写されている乗客は老若男女（ろうにゃくなんにょ）さまざまだが、いずれも上着かコートを着ており、季節を感じさせる。写真家自身もコートの下にカメラを隠し、レンズを覗かずにシャッターを切ったのだろう。向かい合うシートの間隔（かんかく）は一定だから、正面に座った人を撮るかぎり、焦点距離は一定でよい。電車に乗っている人間独特の表情が克明（こくめい）に捉（とら）えられていて、ほとんど同じ構図が続くのに飽（あ）きない。実にいろんな人がいる。じっと見ていると見知らぬ乗客の人生が透（す）けて見えてくるような気さえする。

正真正銘（しょうしんしょうめい）の盗撮写真集でありながら、見事な都市の自画像になっているのは、やはりエヴァンスの天才なのだろう。もちろ

ん発表されている写真は、実際に撮影されたなかから選択されているが、それは美学的な意図や主題によるものではないと写真家自身は書いている。ブレずにちゃんと写っているコマを選んだということだろうか。暗い車内での撮影は、予想以上に失敗が多かったのではないかと想像できるが、完成された作品は歴史的な価値を認められている。

（港千尋『見知らぬ乗客のための写真の歴史』（ウェッジ選書）より）

問１　傍線部Ａ「日の目を見た」の説明として最も適しているものを、次の中から一つ選び記号で答えなさい。

①　それまで埋もれていたものが初めて世間に知られる。
②　無価値とされていたものの真価が理解されるようになる。
③　あまり人気がなかったものが一転して脚光をあびる。
④　かつて勝ち得ていた高い評価をもう一度獲得する。

問２　傍線部Ｂ「写真家の意図」について、『サブウェイ・フォトグラフス』を撮った意図の説明として最も適しているものを、次の中から一つ選び記号で答えなさい。

①　アメリカ中西部やキューバの貧困地域の撮影と、その貧困救済のための資金集めにつなげようとのねらい。
②　二〇年あまりという長い期間公表をひかえることによって、かえって世間の注目を集めようとしたこと。
③　被写体の偶然性と撮影の自動性から、従来とは異なる写真を撮ろうとする美学的なねらい。
④　地下鉄で誰が被写体になるかわからないという偶然性と、撮影の自由度の限定にかえって関心をもったこと。

問３　空欄［Ｃ］にあてはまることばとして最も適しているものを、次の中から一つ選び記号で答えなさい。

①　類似的　②　必然的　③　論理的　④　対照的

第四講　その2　知識モノ解説

文学史・人物解説

●筆者　港千尋＝みなと　ちひろ（一九六〇〜）早稲田大学政治経済学部卒。写真家、著述家、多摩美術大学教授。
○ウォーカー・エヴァンス（一九〇三〜一九七五年）アメリカ、ミズーリ州生まれ。ウィリアムズ大中退、フランスのソルボンヌ（パリ第一大学）に留学。写真家。

語句

ドキュメンタリー↓フィクションではなく事実を記録した作品
アトリエ↓芸術家の仕事場。工房。スタジオ
介在＝かいざい↓あいだにはさまること
構図＝こうず↓被写体になるものの配置やバランス、全体のかたち
拘束＝こうそく↓縛り。自由を制限すること
克明＝こくめい↓細かいところまでいきとどいて鮮明であること

復習問題　第四講

次の傍線部にあたる漢字を、次の選択肢から選びなさい。

（ア）頑ジョウな植物が群立している。　①状　②情　③条　④醸　⑤丈

（イ）センチメンタルな感ショウにひたる。　①症　②掌　③傷　④賞　⑤称

（ウ）強健でブ骨な様子の植物である。　①部　②無　③分　④侮　⑤舞

（エ）子供たちが無ジャ気に遊んでいる。　①斜　②邪　③者　④蛇　⑤謝

（オ）身体は何のエイ響も受けていない。　①映　②栄　③営　④影　⑤鋭

（カ）地下鉄の乗客をヒ写体に選ぶ。　①非　②費　③被　④比　⑤陽

（キ）広い領域を対ショウにして取材する。　①照　②象　③称　④章　⑤省

（ク）美しく完璧なコウ図を工夫する。　①講　②好　③功　④構　⑤溝

（ケ）地下鉄という閉サ空間で撮影する。　①差　②査　③鎖　④詐　⑤狭

（コ）都市の自画像をコク明に記録する。　①克　②刻　③国　④告　⑤谷

第五講　ここまでの成長確認

《評論》　テーマ「漫画と社会・マンガとアメリカ」

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

たぶん二十世紀の後半を通じて、地球上でチャーリー・ブラウンほど有名になった子供はいないだろう。まん丸な顔に数本の髪をなびかせ、いつもおませなルーシー率いる女友達のA嘲笑を買っている。野球をしてもフットボールをしても失敗ばかり、「それでも母さんはぼくを好きだと言ってくれる」と呟く少年である。にもかかわらず、彼は断じて人生の敗者ではない。自己嫌悪をふり払って、かいがいしく犬の世話を焼き、子供仲間の兄貴役、家長役としての気配りを忘れないからである。

そしてあのスヌーピー。名前も「のぞき見屋」にふさわしく、好奇心に溢れておっちょこちょい、そのくせひどく臆病で億劫がりの食いしん坊。猟犬の血を引いているのに、蝶や小鳥や兎とさえ友達になってしまう。犬の訓練学校の落第生で、ときに母親を偲んで家出を試みたかと思うと、気が晴れれば第一次大戦の空の英雄、レッド・バロンに憧れてその役になりきってしまう［B］である。〔中略〕私はそれまで半年を過ごしたアメリカの風景が、しだいに心のなかでなごんで行くのを感じていた。激しい競争社会、誰にも前向きの姿勢しか許さない社会、とりわけ繁栄と反抗が渦を巻く六〇年代前半当時のアメリカが、Cその背後に別の世界を秘めているのが感じられてきたのである。

二十代を終わったばかりの私にとって、それまでアメリカは身構えながらはいって行かねばならない世界であった。戦後の日本人の目に映るこの国は、たとえば輸入される漫画「ブロンディー」に象徴されていた。両国の貧富の差は大きく、それ以上に二つの国民の自信の隔たりは致命的であった。ブロンディーの平凡な日常は、長らく私にとって非日常の夢だったのである。やがて自分で身を置いたアメリカの知的社会は、したがって私にはD二重の意味で競争社会に見えた。アメリカ人と同じ競争を強いられ、しかもはるかに遅れた出発点に立たされていたからである。

そういう私が留学生活にも慣れ、しだいにこの国の手触りを内側から実感し始めたころに、スヌーピーとピーナツが訪れてきたのだった。彼らが語るアメリカは、もちろんそれまでの私のイメージを完全に否定するものではなかった。チャーリー・ブラ

ウンはいつも競争し挑戦しているし、スヌーピーは理想の夢を見つづけている。そこには因循（いんじゅん）の片鱗（へんりん）もないのだが、ただ彼らは勝ち誇ってはいなかったのである。アメリカといえば勝ち誇る人びとの顔が浮かぶ、私の［Ｅ］は静かに崩（くず）されて行った。同時に、表面的には競争に明け暮れていると見える人びとが、本当には何をしてるのかわかるような気がし始めたのである。

たとえばチャーリー・ブラウンは、いつ見てもゲームを作ろうとしている。仲間の気分を引き立て、場面をしつらえ、自分自身を励（はげ）ましてことをまとめようとしている。有名なウンベルト・エーコの誤った解釈に反して、彼は孤独とも劣等感とも無縁（むえん）である。彼の目的は仲間の小さな共同体を保つことであるから、たとえ自分がゲームに負けても目的は果たしたことになる。Ｆ揶揄（やゆ）されてもそれで仲間の気が晴れれば、彼は一座の主人役を十分に務（つと）めたことになる。投げないこと、傍観（ぼうかん）しないこと、ほとんど滑稽（こっけい）に見えるほど積極的であることが、この無力な英雄の精神だといえる。

〔中略〕

あれから三十五年、私はアメリカの実社会でたくさんのスヌーピーとチャーリー・ブラウンに会った。そしてその間に、私の日米戦争の戦後は着実に終わりを告げた。思えば漫画というのは奇妙なものであって、その物語のなかに歴史的な時間は流れない。ピーナツがいつまでも同じ歳の子供でありつづけるなかで、私は変転極まりないアメリカを眺めてきた。だがその過程でときに私のアメリカ像が混乱しようとしたとき、つねに救いになったのはあの変わらないピーナツの姿であった。

彼らはまた、私のアメリカへの信頼を支えてくれただけでなく、思えば広く、社会の変動に耐える精神の強さをも助けてくれた。歴史に翻弄（ほんろう）されがちな二十世紀の後半を生きながら、私は彼らのおかげで非歴史的な時間、繰り返しのなかに意味のある、日常という確実な時間の存在を信じることができた。

（山崎正和（やまざきまさかず）「さよなら、スヌーピー　―ある日米戦後の終わりの思いで―」『日本経済新聞』二〇〇〇年一月二十三日朝刊より）

（注）『ピーナツ』『ブロンディ』……ともにアメリカの新聞連載漫画

問１　傍線部Ａ「嘲笑を買っている」の意味の説明として最も適切なものを、次の中から一つ選びなさい。

①　喝采（かっさい）をあびる　②　同情される　③　ばかにされる　④　人気を得る

問２　空欄［B］・［E］に入れることばとして最も適切なものを、次の中からそれぞれ一つ選びなさい。

［B］　①　現実派　②　空想家　③　反骨者　④　無法者

［E］　①　現実感覚　②　生活習慣　③　先入観　④　理想主義

問３　傍線部Ｃ「その背後に別の世界を秘めている」について、アメリカ人が表面とは異なり、「背後」で行っていることは何か、その説明として最も適切なものを次の中から一つ選びなさい。

①　ゲームを作り、小さな共同体を維持する
②　ゲームに常に勝利するために日々努力を重ねる
③　ゲームに参加することに意味を見つける
④　新しいゲームの創作に日夜はげむ

問４　傍線部Ｄ「二重の意味で競争社会」のここでの意味の説明として最も適切なものを、次の中から一つ選びなさい。

①　アメリカ国内での体力的競争と知的競争
②　日本からの選抜メンバーになるための競争とアメリカ人との競争
③　アメリカ国内での競争と日本対アメリカの競争
④　早くアメリカに渡る競争とその後の生活での競争

問５　傍線部Ｆ「揶揄」の意味の説明として最も適切なものを、次の中から一つ選びなさい。

①　やり玉に挙げる　②　ほめちぎる　③　からかう　④　邪魔する

問６　本文の趣旨と合致するものを次の中から一つ選び記号で答えなさい。

①　漫画は歴史や社会の変化を豊かに説明することができる。

②　漫画は歴史的変化とは関係なく日常を繰り返し描くことができる。

③　漫画は歴史の流れとは関係なく非日常的なヒーローを描くことができる。

④　漫画は歴史の流れのなかでその影響をいやおうなしに受けてきた。

第五講　知識モノ解説

文学史・人物解説

●筆者　山崎正和＝やまざき　まさかず（一九三四〜）京都府生まれ。京都大学文学部哲学科美学美術史専攻卒、同大学院中退。イェール大学演劇学科に留学。関西大学教授、大阪大学教授などを歴任。

○スヌーピー→アメリカのチャールズ・モンロー・シュルツ（一九二二〜二〇〇〇年）が一九五〇年から描き始めた漫画『ピーナツ』に登場するビーグル犬。チャーリー・ブラウンが主人公。

○ウンベルト・エーコ（一九三二〜二〇一六年）イタリアの小説家、文芸評論家、哲学者。小説『薔薇の名前』は世界的ベストセラーになり、ショーン・コネリー主演の映画にもなった。

語句

おませ→子供が実際の年齢より大人びた言動をすること

かいがいしい＝甲斐甲斐しい→おしまず働くこと。きびきび動くこと

億劫＝おっくう→めんどうくさいと思うこと

偲ぶ＝しのぶ→懐(なつ)かしむこと

なごむ＝和む→気持ちが穏(おだ)やかになること

身構える＝みがまえる→緊張すること。相手を迎え撃つ体制をとること

因循＝いんじゅん→ぐずぐずすること。古いしきたりにいつまでも従うこと

片鱗もない＝へんりんもない→少しもない

しつらえる＝設える→場をつくり、整えること

傍観＝ぼうかん→参加せずに冷ややかに見ているだけのこと
翻弄＝ほんろう→ゆさぶること。思うままにもてあそぶこと

復習問題　第五講

次の傍線部にあたる漢字を、次の選択肢から選びなさい。

（ア）自己ケン悪をふりはらって進む。　①兼　②嫌　③権　④剣　⑤険

（イ）好キ心が豊かな子に成長する。　①気　②奇　③期　④危　⑤喜

（ウ）一度の失敗から臆ビョウになる。　①秒　②廟　③描　④病　⑤苗

（エ）アメリカは激しい競ソウ社会だ。　①走　②層　③双　④奏　⑤争

（オ）経済的物質的な繁エイを謳歌する。　①栄　②映　③英　④営　⑤衛

（カ）常に新しいことにチョウ戦する。　①超　②挑　③兆　④張　⑤朝

（キ）一人きりのコ独に耐える。　①孤　②個　③子　④固　⑤弧

（ク）ひどい劣トウ感にさいなまれる。　①踏　②謄　③倒　④等　⑤島

（ケ）社会の変動のカ程を記録する。　①課　②加　③過　④科　⑤可

（コ）競技会にセッ極的に参加する。　①績　②積　③責　④跡　⑤籍

第六講　長めの文章をグループ分け

その1《評論》第一講　その1の続き

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

すぐれた芸術家は、はげしい意志と決意をもって、既成(きせい)の常識を否定し、時代を新しく創造していきます。それは、芸術家がいままでの自分自身をも切りすて、のり越えて、おそろしい未知の世界に、おのれを賭(か)けていった成果なのです。そういう作品を鑑賞(かんしょう)するばあいは、こちらも作者と同じように、とどまっていないで駆(か)け出さなければなりません。だが、芸術家のほうは、すでにずっとさきに行ってしまっているわけです。追っかけていかなければならない。どうして、こういうものを描いたんだろう――どうして、こうなったんだろうということを、心と頭、全身で真剣に考え、その距離をうずめていかなければならないのです。

創作者とほとんど同じ緊張感、覚悟(かくご)をもって、逆にこちらも、向こうをのり越えていくという気持でぶつからないかぎり、ほんとうの芸術は理解できないものです。つまり、見るほうでも創造する心組みでぶつかっていくのです。

今まで、まるで想像もできなかった世界に、身を投じる緊張感は、すぐれた芸術に積極的にふれたばあいに、かならずおこる気分です。それは確かに、けっしてここちよいというものではない。まして作品に追いついていけないばあいには、正直に言って、疑惑(ぎわく)と苦痛感を覚えるものです。

すぐれた絵の前で、悲壮(ひそう)な顔をして見ている人がよくありますが、「アイツ、ブッてやがる」などと、バカにしてはいけません。髪をカキむしったり、ため息をしたり、森の中でライオンかなにかに出っくわしたときのように、すごい目で、前のほうをにらんでいる、苦痛そのものの表情は、そういう緊張感からきているのです。

ところで、いったんそれがつかめ、自分自身のものにすることができると、急に命がぐっと力づよく飛躍(ひやく)します。そこにこそ、大きな喜びがあるのですが、しかしまた、それすらも苦痛に似た、それと背中あわせのよろこび、つまり歓喜(かんき)です。うんうん、と言って、息もつけないような、心をふるいたたせ、心身に武者(むしゃ)ぶるいみたいなものを感じさせる前進的な充実感なのです。だ

から、いずれにしても、たんにここちよいとか、「ああ、いいわね」とかいうような、無責任な感動ではないのです。

さて、このような激しさをもった芸術、わかる、わからないということをこえて、いやおうなしに、ぐんぐん迫って、こちらを圧倒してくるようなものは、いやったらしい。

例をあげましょう。たとえば、ピカソの絵の多くは、正直にいって、ただ楽しいというものではないでしょう。むしろ、一種の不快感、いやったらしさを感じさせるにちがいありません。それは、彼こそ今日のすぐれたアヴァンギャルドだからです。私が先年、パリに行ったとき、ちょうど「立体派」の回顧(かいこ)展をやっていました。今世紀のはじめ、新しい絵画の口火(くちび)を切ったこの芸術運動は、久しいあいだ、「でたらめだ」とか、「絵ではない」などとののしられ、狂気の代名詞にさえ使われていました。ところが、半世紀たった今日では、すでに世界絵画の古典として頭を下げられるようになったのです。たいへんな評判で、会場は押すな押すなの騒ぎでした。

ピカソの大傑作、一九〇七年作の『アヴィニョンの娘たち』が出品されていました。青年ピカソが、当時パリの優美でデリケートな爛熟(らんじゅく)しきった雰囲気のなかで、大胆不敵(だいたんふてき)にも、グロテスクな黒人原始芸術の手法をそのまま取り入れて作った作品で、立体派運動への第一歩となったものです。画面の左右の形式が不均衡(ふきんこう)にずらしてあり、形態、色彩は猛烈な不協和音(ふきょうわおん)を発しています。これが、ものすごい迫力で、会場全体を威圧(いあつ)しているのです。ニューヨークの近代美術館からはこんできたもので、私もはじめてナマにふれたのですが、ズーンと全身にひびいて、骨の髄(ずい)までくい入ってくるセンセーションは、なまめかしいまでにいやったらしい。その偉大さ、はげしさにおいて、おそらく最高傑作『ゲルニカ』と対比していい作品であり、今世紀前半の絵画の最高峰の一つだと思います。〔中略〕

「いやったらしさ」の意味について、もう一つお話ししましょう。このヨーロッパ旅行の帰りみち、私はエジプトのカイロに立ちよりました。博物館に行きましたが、神秘をひめた数しれぬ古代の石像の中に、ひときわ燦然(さんぜん)と光りかがやくツタンカーメン（紀元前十四世紀のエジプト王）の寝棺がかざられてありました。

これは、まっくらなピラミッドの中にひめ隠されていたものですから、数千年たった今でも新鮮に、まったく当時のままの姿をたもって、まるで、きのう作られたもののように、金色にギラギラしています。それに、ドギつい極彩色(ごくさいしき)の模様がびっしりつけられているものですが、ハッとして思わずあとにさがるほど、はげしくて、すさまじい美観なのです。暑気(しょき)をさえぎるために、

厚い壁をめぐらした博物館の中で、それをじいっと見すえていると、鬼気(きき)せまる思いがします。とうてい、「ああ、きれいね」といって、楽しんでみるような代物(しろもの)ではない。

その夜、新聞記者がインタヴューに来ました。「カイロの印象はどうか、博物館に行ったそうだが」などと感想を聞くので、「エジプト芸術は、世界のあらゆる芸術のなかで、もっともすばらしいものの一つだ。それは、その〝いやったらしさ〟においてだ」と答えたら、さすがに、あきれかえった様子でした。

そこで、私一流の芸術論を一くさりやったあとで、「ゴッホだって、数十年まえは、まったくいやったらしい激しさがあったのに、もう今日では、きわめてほほえましく、優美なものになってしまっている。ブリューゲルだってそうだ。ところでエジプト芸術は四千年たった今日、なおゾッとするほど、いやったらしい。そこがエジプト芸術の比類(ひるい)のない偉大さだ」。ようやく納得したらしく、そんなほめかたをされたのは、はじめてだと、ひどくよろこんだふうで帰りましたが、翌朝の新聞にでかでかと、「日本のアヴァンギャルド画家、オカモト、エジプト芸術にたいし新説を吐(は)く」という見出しで、センセーショナルな記事がのっていました。

（岡本太郎(おかもとたろう)『今日の芸術』）

問１　次の語群について、筆者が肯定的に使っている表現にはＡ、そうではない表現にはＢと記しなさい。

①　既成の常識
②　おそろしい未知の世界
③　苦痛そのものの表情
④　悲壮な顔
⑤　激しさをもった芸術
⑥　不協和音
⑦　はげしくて、すさまじい美観
⑧　ほほえましく、優美なもの
⑨　いやったらしい
⑩　無責任な感動
⑪　きれい
⑫　ここちよい
⑬　歓喜

第六講　その１　知識モノ解説

文学史・人物解説

●筆者　岡本太郎＝おかもと　たろう（一九一一～一九九六年）神奈川県生まれ。慶應義塾普通部卒。東京美術学校（東京芸術大学）中退。「芸術は爆発だ」などのことばも有名な画家、立体造形の作家。

○パブロ・ピカソ（一八八一～一九七三年）スペインに生まれ、フランスで作家活動。多彩な視点を一つの画面に集約したような立体派（キュービズム）の創始者とされる。

○ヴィンセント・バン・ゴッホ（一八五三～一八九〇年）オランダ生まれ、主にフランスで作家活動。

語句

悲壮＝ひそう→悲しさのなかに雄々（おお）しく勇ましい要素があること

歓喜＝かんき→非常に大きな喜び

武者ぶるい＝むしゃぶるい→重大な場面で、心が勇ましくふるいたち、体がふるえること

回顧＝かいこ→過去をかえりみること

口火を切る→新たにものごとを始めること

爛熟＝らんじゅく→極限まで成熟すること

大胆不敵＝だいたんふてき→度胸があって何事もおそれないこと

グロテスク→異様で不気味である様子

不均衡＝ふきんこう→アシンメトリ・左右の対称性をくずしていること

不協和音＝ふきょうわおん→整った調和ではない和音

センセーション→大騒ぎ。大評判
なまめかしい＝艶めかしい→いろっぽい。セクシーな様子

第六講　長めの文章をグループ分け

その2《評論》　テーマ「認識論」

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

人間は考える葦（あし）である、というパスカルのよく知られた言葉があります。確かにわれわれ人間の最大の特徴は、二本足で歩くことでも、手を使うことでも、笑うことでもありません。喋（しゃべ）ることでさえないでしょう。なんといっても考えることです。

考えるというのは哲学者の専売特許（せんばいとっきょ）でもなければ、科学者の専売特許でもありません。人間誰もに備わっているごく普通の心の働きです。

ですが、よく考えると、考えるとはどういうことなのか、たちまちわからなくなります。

何かについて考えることはごく自然に出来ますが、何かについて考えるとはどういうことかを考えるのは自然には出来ません。

たとえば平和ということについて自分なりに考えることはなんとなく出来そうですが、「平和について考えるとはいったいどういうことなのか」について考えるのは、たいへん難しいのです。

日常の営みとして「何かについて」考えることは誰もがやっていることですが、その日常の営みである「考えること自体について」考えることは、誰もがやっているわけではありません。

ま、暇（ひま）な学者がやっているのです。

パスカルのように、「人間は考える」という一般的事実を述べるのは比較的やさしいのですが、「考えるとはこれこれこういうことである」と述べるのは難しいのです。

こういう難しい問題は、正面突破をはからず、側面から攻撃してみるのがよさそうです。

それが本書のわかる・わからない談義です。

われわれは「わかった？」「いやわからない」「あ、わかった」「うーん、もうちょっとでわかりそう」「もう何がなんだかわけ

がわからない」などと言い交わして毎日を送っています。

このわかる・わからないという表現は、考えるからこそ出てくる言葉です。すべてわかっていれば考えることはありません。わかるという表現すら必要ないでしょう。わからないことがあるからこそ、わかったという事態も発生するのです。わからないことがわかったと思えるようになるのは、考えたからです。考えなければ、わからないままです。

われわれは意識的に考えるだけでなく、無意識的にも考えています。何をどう考えているかというところに気が付かないままで何かを考えているのです。考えるというのはプロセスで、途中経過ですから、その状態はなかなか捕捉出来ません。しかし、考えるというプロセスがなんらかの形で終結すると、わかった・わからないという比較的はっきりした心の変化を感じることが出来ます。わかる・わからないという感情が湧くのです。

このわかる・わからないという感情の原因となる心の動きが、考えるということにほかなりません。

思考とか理解ということが問題になると、すぐ演繹とか帰納とか還元とかいう難しい話におちいりがちですが、それは心の働きの一部で、すべてではありません。

心の働きはもっと多様で、かつ複雑です。

そのあたりをわかる・わからないという心の動きを手掛かりに考えてみたのが本書です。

筆者は神経内科が専門で、その中でも高次機能障害学という分野を主として研究しています。

何をやっているかといいますと、脳梗塞や脳出血などで不幸にして脳に損傷を生じてしまい、その結果、認知障害を来した人たちの診断や治療やリハビリです。この人たちの障害はそれまで自然に流れていた心の働きがあちこちで停滞してしまうことです。言い換えると、それまで普通にわかっていたことがわからなくなってしまうことです。

つまり、わかるとはどういうことなのか、なぜこの人たちは簡単なことでもわからなくなってしまうのかを毎日毎日考えるのが仕事です。

（山鳥重『「わかる」とはどういうことか——認識の脳科学』）

問１　次の語群について、筆者の論述の主題といえるものにはA、そうではない表現にはBと記しなさい。

①　人間は二本足で歩くこと
②　人間は手を使えること
③　人間は考える葦であるということ
④　何かについて考えること
⑤　考えることはどういうことか考えること
⑥　平和について考えること
⑦　難しい問題の正面突破
⑧　演繹や帰納や還元をもちだすこと
⑨　わかるとはどういうことか研究すること

第六講　その2　知識モノ解説

文学史・人物解説

●筆者　山鳥重＝やまどり　あつし（一九三九〜）兵庫県生まれ。神戸大学大学院医学研究科修了。医学博士。東北大教授などを務めた。

○ブレーズ・パスカル（一六二三〜一六六二年）フランスの哲学者、数学者。気圧や圧力の単位にその名を遺す。主著『パンセ』。「人間は考える葦である」は、人間は物理身体としては、かよわい葦（水辺に生える細い植物）同然だが、思考できるという偉大さをもつという意味。

語句

専売特許＝せんばいとっきょ→独占的に取り扱うことを認められること

演繹＝えんえき→大きな原理や原則から考えをはじめること

帰納＝きのう→小さな個別の事例から考えをはじめること

還元＝かんげん→もとにもどすこと。大きな原理にまとめあげること。単純化すること

復習問題　第六講

次の傍線部にあたる漢字を、次の選択肢から選びなさい。

（ア）先進的な作品について真ケンに考える。　①権　②件　③剣　④検　⑤険

（イ）作品を前に悲ソウな顔つきをしている。　①相　②装　③壮　④僧　⑤想

（ウ）見事な芸術作品にカン喜の声をあげる。　①歓　②感　③勘　④観　⑤冠

（エ）十九世紀の作家のカイ顧展をひらく。　①会　②回　③解　④懐　⑤開

（オ）左右のかたちの均コウを考える。　①公　②功　③抗　④衡　⑤衝

（カ）決定の途中ケイ過をよく吟味する。　①軽　②経　③径　④計　⑤継

（キ）身体に損ショウを与えるほどの事故だ。　①症　②傷　③少　④消　⑤招

（ク）音波探知機で目標を捕ソクする。　①即　②測　③速　④促　⑤捉

（ケ）キ納法的に考えて多数の事例をまとめる。　①帰　②機　③期　④着　⑤来

（コ）こころの働きが停タイしてしまう。　①対　②体　③滞　④帯　⑤退

第七講　長めの文章で言いかえに注目

その1《評論》第二講　その1の続き

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

ラジオで聞いた、歌舞伎（かぶき）の師匠（ししょう）の発言はその点でとても印象的だった。外国人に歌舞伎の舞を教えるとき、言葉でなんでもかんでも訊（き）いてきて授業にならないので、三日間は質問なし、ということで、とにかく型を覚えさせた。が、また四日目になると質問の渦（うず）……。が、これがこのごろは日本人にも起こっているという。ひとはもう、習うということを知らなくなっている、理屈で先に説明を訊いてくるというのだ。

なにか身体の深い能力、とりわけ身体に深く浸透（しんとう）している智恵や想像力、それが伝わらなくなっているのではないか。あるいは、そういう身体のセンスがうまくはたらかないような状況が現われてきているのではないか。

そんな身体からなにやら悲鳴のようなものが聞こえてくる気がする。身体への攻撃、それを当の身体を生きているそのひとがおこなう。化粧とか食事といった、本来ならひとを気分よくさせたり、癒（いや）したりする行為が、いまではじぶんへの、あるいはじぶんの身体への暴力として現象せざるをえなくなっているような状況がある。

たとえばピアシング。芹沢俊介（せりざわしゅんすけ）は、ある新聞記事のなかで（『朝日新聞』一九九五年八月三十日夕刊）、「一つの穴（ピアス用の）を開けるたびごとに自我がころがり落ちてどんどん軽くなる」という男子の言葉を引き、次のようにのべている。

「気になることというのは、彼らが自己の体に負荷（ふか）をかけ続けることで自我の脱落という感覚を手に入れている点である。自分を相手にしたこの取引において、彼らは自己の体への小さな暴力といっていいような無償（むしょう）の負荷――フィジカルな負荷――を自分から差し出すことによって、精神的な報酬（ほうしゅう）を得ている。教団という契機（けいき）を欠いているけれど、私にはこれが宗教に近い行為のように映るのである」、と。

あるいは摂食（せっしょく）障害という、食による自己攻撃。

あるいは、生理がなくなって、なのにそれがうれしい、身軽になった感じという、二十代の女性の感覚。

（鷲田清一「悲鳴をあげる身体」プロローグ）

問１　次の語群について、筆者が肯定的に使っている表現にはＡ、そうではない表現にはＢと記しなさい。

①　言葉で訊く　　②　質問の渦
③　習う　　④　理屈で説明
⑤　身体の深い能力　　⑥　身体のセンス
⑦　自己の体に負荷をかけ続ける　　⑧　自己攻撃

第七講　その1　知識モノ解説

文学史・人物解説

●筆者　鷲田清一＝わしだ　きよかず（一九四九〜）京都府生まれ。京都大学文学部卒、同大学院博士課程修了。前大阪大学学長。日本を代表する哲学者。朝日新聞朝刊の連載「折々のことば」の筆者。

○芹沢俊介＝せりざわ　しゅんすけ（一九四二〜）東京都生まれ。上智大学経済学部卒。評論家。

語句

負荷＝ふか→負担や圧力をかけること

無償＝むしょう→他の目的をもたないこと。報酬をもらわないこと

報酬＝ほうしゅう→ごほうび。見返り

フィジカル→身体的

契機＝けいき→きっかけ

第七講　長めの文章で言いかえに注目

その2　《評論》　第三講　その2の続き

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

観察例が一名だけである点をもって、この理論を根拠薄弱とみなしてはならない。考えてみれば、朝夕踏切で、保護者に抱かれながら列車の通過を食い入るように見守る幼児たちの姿がじつにしばしば見うけられるではないか。彼らの父母、ジジババはみなこの理論の妥当性を証言してくれるはずだ（ただしそれらの幼児たちは、ほぼ例外なく男児であるということは付け加えておくべきだろうが）。

「電車段階」において幼児がわがものとする重要な概念、それがいまも触れた「脱線」にほかならない。母親のいないあいだ、糸巻きを投げて「ある、ない」と繰り返し戯れる幼児の姿に、フロイト博士は母親の不在を象徴的に乗り越えようとする子供の無意識的心理を看取した。しかし糸巻きころがしなど、新幹線の脱線という大事に比べてなんだろう。何しろのぞみ号や白鳥号や踊り子号や、幾台もの列車を手元において管理し、青くのびるプラレールの軌道上でそれらをあやつる赤ちゃん運転士は、日々そうした大事件を身をもって生きるのである。列車たちのあるものは車体が外れて土台がむき出しの状態になり、あるものは線路の断片ごとかなたに吹っ飛び、またあるものは連結を外されてばらばらにころがっていく。またしばしば、踏切上でとんでもないアクシデントが出来したりもする。

朝、ふとんからすっくと起き上がって飛び出すやいなや、居間の床でさっそく始発列車を出発させる幼児。ふと見ると踏切のところで騒ぎが持ち上がっている。「ああっ、こんなところに、ちんかんせんが、タンクローリーが、ゴードンくんがっ」。そう驚愕のつぶやきを洩らしながら幼児は自ら、新幹線のぞみ号に黄色のタンクローリーをごんごんぶつけ、そこにさらにゴードンを突っ込ませているのだ。仮にもし現実に起こったとしたらそれは社会をゆさぶる大惨事になってしまう。ミニチュアの、そして自作自演の惨事とはいえ、しかしそうした一こま一こまは、幼児にとってやはり深い意義を持つにちがいない。

「脱線だあー」の決まり文句でしめくくられる想像上のカタストロフはその都度、天地がひっくり返るような規模の事件とし

て幼児の精神を揺るがし、鍛えているのではないか。父親はそんな大げさな想像をして感慨に浸る。

幼児と一緒にプラレール上で電車を動かす父親が、スピードをつけて送り出したつもりの車体を転覆させてしまうという事態もまた頻出する。そのとき幼児は父親の不手際をまじまじと見つめながら、「脱線だね」と簡潔に一言、言葉を投げかけてくる。決して相手をとがめるのではない、穏やかな事実確認の口調には、この子の生まれつきの温和な気質ばかりでなく、鉄路に生きる者としての自覚もがこめられているかのようで、なかなか頼もしい。

電車に乗るときにはもちろん最前列の車両に乗り込み、幼児を抱きかかえてガラス越しに運転席の一部始終を観察できるようにしてやらなければならない。そのガラス前の定位置では、気合の入った男児ばかりが競合することになる。

そこで子供が投げかける、食い入るような眼差しの力と、運転士に寄せる思いの真摯さを伝える作品として貴重なのは、何といってもクロード・シモンの『路面電車』である。〔中略〕

ただしここに描かれた二十世紀初頭、フランスの地方都市の路面電車と、たとえば現代の東京、京王井の頭線の電車とを比べるならば、大きな違いがある。〔中略〕フランス路面電車の運転士の「灰色のくたびれた三つ揃いの背広」だの、「裾のすり切れたズボン」だのといった服装のみすぼらしさに対する、わが井の頭線運転士諸氏のヨウカン色制服姿のりりしさだろう。むろん彼らもまた幼児の目に「権力のオーラ」をまとっていることに疑いはないが、そのオーラの重要な要素は制服なのだ。

なにしろ、それに眩惑された幼児は電車とは無関係に、工事現場の見張り係であれ、公園の番人であれ、警察官であれ、制服姿の男が向こうに見えるやいなや相好をくずし、彼を指差して「うんてんちゃん！」と連呼しながら突進していくのである。

徹底してコミュニケーションを欠くクロード・シモン的運転士像に対し、われらが井の頭線においては幼児と乗務員のあいだに実に濃密な感情の交流が成り立っている。電車を降りてなお、去っていく電車をなごり惜しく見送る幼児が手を振り続けると、最後尾のドアから半身を乗り出した車掌さんが、最後にきっと手を振ってくれるのである。その一瞬、立場や年齢の違いを超えて両者のあいだに交わされる友愛の温かさに、横で立ち会う父親はちょっと照れてしまうほどである。決して大げさにバイバイをしてみせるのではなく、白手袋の指先をひらひらと軽く揺らすだけで幼児に意を伝える車掌さんの簡潔なしぐさには、フランス語の pianoter（ピアノを弾くのに似た指の動きをする）という動詞がふさわしい。

車掌さんとのあいさつを終えて満足した幼児を乗せたベビーカーを押しながらふと考えた。なるほど幼児が運転士、車掌さん

に憧れるのはもっともだが、考えてみればこの僕自身、こうやって大切なお客さんを日々運び続ける運転士であり、車掌ではないか。よほどの悪天候でないかぎり、ベビーカーを押さない日など一日たりともないのだ。運転士の鑑と言ったっていい。するとそのとき、横を通る自動車に注意を惹かれている様子だったベビーカー上の幼児が、突然、うわあっと座席から飛び出すような垂直の動きを見せたかと思うと、唐突に叫んだではないか。「ぶーぶーにのりたーい！」

やたらと角ばって場所ふさぎなメタリック塗装の４ＷＤ車が、ベビーカーすれすれに通り過ぎていったのだが、そのいけ好かない巨体に幼児は魅惑されたものらしい。それにしてもこれはこちらの虚を衝くひとことだった。幼児は自分の父親が自動車どころか、免許証すらもたぬ人間であることをまだ知らないのだ。父親の父親はといえば、平均寿命とくらべて長くはない一生のあいだに車を三十台近く乗り換えるという、古い言葉でいわゆる「カーキチ」だった。だから自分はもう車の運転なんかするまでもないんだと理屈にならない理屈をつけて、この父親は免許を取らないままの半生。

しかし実はもちろん単に面倒くさかったからのことだし、そのうえ十数年前の凍てつくような冬の夜、自転車の酔っ払い運転で悲惨なクラッシュ事故を演じてからは、自転車にさえ指を触れずにいるというのが実情である。自分の父親が決して「運転士さん」たる資格のない、自由に乗りこなせる乗り物一つ持たない男であることに、早晩子供は気づくだろう。そのとき、失望した彼の胸のうちで、かつて父親がベビーカーだけは嬉々として押し続けたという事実は、はたして何らかの意味を持つだろうか？

（野崎歓『赤ちゃん教育』）

問１　傍線部「鉄路に生きる者としての自覚もがこめられているかのようで、なかなか頼もしい」の表現についての説明として最も適当なものを次の中から選び記号で答えなさい。

① 将来、我が子が鉄道技師や運転士や運輸管理などの職業につく適性があるとわかり、その安心感を表現している。
② 他者のミスにも怒ることなく穏やかに対処し、冷静に対処する姿に、将来の鉄道マンたる資質を見出し喜ぶ表現になっている。
③ ミニチュアの鉄道で、自作自演の惨事を演出して父に見せる我が子の想像力と行動力に感服した表現になっている。
④ 「電車段階」と呼べるような幼児の心の発達段階にかかわる事例を、おおげさに表現することでユーモアを出している。

問２　次の各表現について、本文の内容と合致しているものには○、合致していないものには×をつけなさい。

①　電車の「脱線」の遊びは、幼児の精神を鍛え、成長させるなど重要な意義をもつと思われる。

②　電車の「脱線」という大惨事は、居間での想像上のこととはいえ、幼児の心に傷を残すと心配される。

③　車掌が、電車を見送る幼児に手まで振ることは過剰なサービスの上に父親の立場を奪うものである。

④　筆者自身が自動車免許をもたないのは、その父親が車マニアだったという十分な理屈がある。

⑤　電車をはじめとする大きな乗り物には、とりわけ乳幼児期の男児を引き付ける魅力があるといえる。

第七講　その２　知識モノ解説

文学史・人物解説

●筆者　野崎歓＝のざき　かん（一九五九〜）新潟県生まれ。東京大学文学部フランス文学科卒。翻訳家、エッセイスト、東京大学大学院人文社会系研究科教授。本書『赤ちゃん教育』で講談社エッセイ賞受賞。他の著書『翻訳教育』など。

○ジークムント・フロイト（一八五六〜一九三九年）オーストリアの医師。精神分析学の創始者。

○ゴードンくん　きかんしゃトーマスに登場するキャラクター。

語句

妥当＝だとう↓正しいこと。適切であること

概念＝がいねん↓ことば。思想や学問のことば

象徴＝しょうちょう↓ある具体的なもので抽象的なことがらを示すこと。例「ハトは平和の象徴」

看取＝かんしゅ↓外見から深い意味を読み取ること

出来＝しゅったい↓事件や事故が発生すること。物ができあがること

驚愕＝きょうがく↓非常におどろくこと

カタストロフ↓破局。物語のおおづめ

感慨＝かんがい↓心に深く、しみじみ思うこと

頻出＝ひんしゅつ↓よく起こること。よく出ること

不手際＝ふてぎわ↓やり方や結果が悪いこと。ミステイク

真摯＝しんし→まじめでひたむきなこと
オーラ→独特の雰囲気
眩惑＝げんわく→何かに圧倒され、目がくらむこと
相好をくずす＝そうごうをくずす→にこやかになる
鑑＝かがみ→模範。望ましいモデル
唐突＝とうとつ→前ぶれもなく突然。だしぬけ
虚を衝く＝きょをつく→すきや油断をおそうこと
早晩＝そうばん→いずれ。遅かれ早かれ

復習問題　第七講

次の傍線部にあたる漢字を、次の選択肢から選びなさい。

（ア）歌舞伎のシ匠のお話をうかがう。　①氏　②士　③史　④師　⑤資

（イ）身体に深くシン透している知恵がある。　①新　②浸　③深　④信　⑤芯

（ウ）強いフ荷を心と体にかけてしまう。　①負　②付　③不　④附　⑤歩

（エ）急な仕事で大きな報シュウを得る。　①酬　②州　③集　④収　⑤秀

（オ）体で学習せず、リ屈でわかろうとする。　①利　②李　③裡　④理　⑤里

（カ）多数の根キョを挙げて立証する。　①居　②虚　③許　④拠　⑤去

（キ）電車の模型が脱線してテン覆する。　①天　②転　③点　④典　⑤添

（ク）箇ケツなしぐさで感謝を表現する。　①決　②結　③欠　④血　⑤潔

（ケ）赤ちゃんがトウ突に叫び声をあげた。　①当　②唐　③頭　④糖　⑤登

（コ）運転免許を取得するのがメン倒だ。　①免　②綿　③面　④棉　⑤麺

第八講　実力確認の問題

《随筆》テーマ「哲学　自己と他者」

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

　地下鉄に乗ったときのことだ。わたしの家は地下鉄の始発駅近くにあって、いつも数えられるほどのひとしか乗り込まない。その日乗客はたったふたり、わたしの前に老境（ろうきょう）にさしかかった女性がひとり座っているばかりであった。発車のベルがなり、鞄（かばん）から読みかけの本を取り出そうとしたとき、ひとりのＯＬがあわてて駆（か）け込んできた。そしてふうっとため息をつきながら、わたしの斜め向かいに腰をおろした。

　五〇代半ばくらいの女性と四〇代の男性と二〇歳過ぎの女性、わたしたちの車両にはちょうど三世代の人間がひとりずつ乗り合わせた格好になる。中間のわたしからすれば、ふたりの女性は親でも妻でも姉でも妹でも娘でもありえない存在、［Ａ］家族のアナロジーをどうも適用しにくい存在であって、そのせいかどうか知らないが、他人として妙（みょう）に気になるところがあり、かと言って彼女たちをじっと見つめるのも失礼なことなので、なにを見るともなくうつろに視線を泳がせていた。

　突然、斜め前の若い女性が、バッグのなかから短い刷毛（はけ）やら薄っぺらいケースやら金属製のスティックのようなものを取りだし、なれた手つきで化粧をはじめた。それは想像していた以上にＢ入念な作業で、メイクというのはこんなに複雑なものかとあっけにとられると同時に、女性の化粧の一部始終（しじゅう）はじめてつぶさに見ることができるという希有（けう）な時間に溺（おぼ）れ、気がついたときはもう下車駅の四条（しじょう）だった。彼女もいっしょに降りるようだったが、仰向（あおむ）いた彼女の顔を盗み見するように視線をやると、そこにはくっきりと鮮やかな別人の顔があった。

　考えてみれば、女性が化粧しているところをのぞくというのは、失礼千万（せんばん）なことである。のぞかれていることに気がつけば、彼女はとたんに冷たいまなざしをわたしに向け返したことだろう。［Ｃ］おかしなことに、妙に居心地（いごこち）わるくなったのはわたしのほうだった。なぜかよくわからなかった。お行儀（ぎょうぎ）のわるさにＤ辟易（へきえき）した、というのとはちょっと違う。地下鉄の扉（とびら）のガラスにちらりとじぶんの姿を映し、服装の乱れをチェックするのだったら、横から見ていてほほえましいくらいだから。

そのことを友人に話すと、彼も同じ経験をしたことがあると言った。そしてとっさに、子どものころ、おばあさんが部屋の隅（すみ）の鏡台（きょうだい）に向かって髪を梳（す）くのを見て、ひどく叱（しか）られたことを思いだしたという。そのとき彼女は、鏡にじぶんを映している姿は猫に見られても恥ずかしい、とつぶやいたそうだ。その経験から彼は、電車のなかで化粧を直している女性を見たときとにかく無性（むしょう）に不愉快になるのは、見ているこのじぶんが彼女にとって他人どころか、猫ほどの存在ですらないという事実を平然と突きつけられるからだと解釈しているという。なるほど、と思った。〔中略〕

〈見えるじぶん〉をわたしたちはごくわずかしかじかに見ることができない。そこでわたしたちはじぶんの身体についての少量の知覚情報や鏡、他人の視線を手がかりにし、それらを素材として、じぶんの可視的身体をひとつのイメージとして想像的に縫（ぬ）い上げる。わたしたちにとってじぶんの身体とは、いわば薄暗がりのなかでしかかかわれない不確かなものなのだ。〔中略〕

しかし、鏡のなかをいくらのぞき込んでも、〈見るわたし〉に〈見えるわたし〉は見えてこない。あるいは対象としてデフォルメされた〈わたし〉しか見えてこない。そこには他者が不在だからだ。

ひととひとが見つめあっているとき、ひとは鏡をのぞき込むときのように、たがいを対象として観察しあっているのではない。まなざしは他人をじかにつかむと同時に、他人を迎えるものなのである。だから他人の顔を横からじっと見ていても、そのひとがまなざしをこちらに向けた瞬間、眼がかち合い、わたしと他者とのあいだに距離はなくなってしまう。そのときわたしたちの身体全体がたがいを映しだす鏡になる。

こうした関係のなかでわたしたちがそれぞれの〈わたし〉を紡（つむ）ぎだしてゆくのだとすれば、他者こそがわたしたちにとって第一の鏡だということができる。

地下鉄のなかでコンパクトをのぞき込んでいた女性にとって、すくなくとも車両のなかには彼女の〈わたし〉を映しだす鏡としての他者はいなかった。彼女はあきらかに他者の存在を抹消（まっしょう）していたのである。

そう考えて、E<u>どきりとした</u>。じつはその数日前、わたしは徹夜のあと出席した小さな集まりのあと、親睦（しんぼく）のための食事の席で、なんと一時間近く熟睡してしまっていたからだ。言い訳はありえない。彼女の場合と同じように、このときわたしもまた、他者のまなざしを拒むというしかたで、じぶんの存在を密封したのだから。

哲学者のマックス・シェーラーは人間の羞恥心（しゅうちしん）を《天然の［　F　］》と呼んだが、そうするとわたしはそのとき、じぶんの見

苦しい裸を他人の眼に圧しつけていたことになる。そのときわたしはきっと、隠すことも失うものもない皮一枚の存在と化していたにちがいない。《他者の他者》としてのありかたを脱落させたじぶんの一例である。

（鷲田清一『じぶん・この不思議な存在』）

問１　空欄 A ・ C を埋めるのに最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

①　なぜなら　②　けれども　③　ところで　④　たとえば　⑤　つまり　⑥　なるほど

問２　傍線部Ｂ「入念な」の意味の説明として最も適当なものを次の中から選び記号で答えなさい。

①　非常に速く行為を進める様子　②　集中して細部まで気を配る様子
③　周りのことを強く意識する様子　④　自らの技巧を自慢する様子

問３　傍線部Ｄ「辟易した」の意味の説明として最も適当なものを次の中から選び記号で答えなさい。

①　傷ついて悲しい気持ちになること　②　相手を称賛したい気持ちになること
③　うんざりしていやな気分になること　④　楽しく愉快な気持ちになること

問４　傍線部Ｅ「どきりとした」について、なぜどきりとしたのか。その説明として最も適当なものを次の中から選び記号で答えなさい。

①　徹夜のあとの親睦の食事の席で一時間近くも熟睡した行為が、他者の目を欠いた恥ずかしいものと気づいたから。
②　地下鉄の車内で化粧をしていた若い女性に対して居心地わるい思いをした理由が、今になって突然理解できたから。
③　親睦会で熟睡した自分の行為と地下鉄で化粧した若い女性の行為が、羞恥心を欠いている点で同じと気づいたから。
④　親睦会の食事の席にもかかわらず、じぶんの裸体をおしげもなくさらしたことが今になって悔やまれるから。

問５　空欄 F を埋めるのに最も適当なものを次の中から選び記号で答えなさい。

① 衣装　② じぶん　③ 友人　④ 仮面　⑤ 裸体

第八講　知識モノ解説

文学史・人物解説

●筆者　鷲田清一＝わしだ　きよかず（一九四九〜）京都府生まれ。京都大学文学部卒、同大学院博士課程修了。前大阪大学学長。日本を代表する哲学者。朝日新聞朝刊の連載「折々のことば」の筆者。

○マックス・シェーラー（一八七四〜一九二八年）ドイツの哲学者。

語句

老境＝ろうきょう↓高齢世代に入ろうかという年齢
アナロジー↓類比。似たものと比べること
一部始終＝いちぶしじゅう↓ものごとの始まりからおしまいまですべて
つぶさに＝具に↓細かく詳しく具体的に
希有＝けう↓めったにないこと。珍しいこと。稀有とも書く
あっけにとられる＝呆気にとられる↓意外さに驚いたりぼんやりすること
千万＝せんばん↓程度がはげしい、はなはだしいこと。「笑止千万」「ふとどき千万」などと使う
溺れる＝おぼれる↓熱中して我を忘れること
羞恥心＝しゅうちしん↓恥ずかしいと思うこころ

復習問題　第八講

次の傍線部にあたる漢字を、次の選択肢から選びなさい。

（ア）記入もれがないか入ネンにチェックする。　①燃　②然　③捻　④念　⑤粘
（イ）手鏡でケ粧の完成度を何度も確かめる。　①化　②毛　③気　④家　⑤仮
（ウ）子供のお行ギの悪さを優しく注意する。　①儀　②義　③偽　④戯　⑤議
（エ）生徒の服ソウの乱れをとがめる。　①総　②葬　③争　④相　⑤装
（オ）会議の後、シン睦の会が用意されている。　①信　②親　③新　④振　⑤慎
（カ）自分をかえりみて羞チ心を忘れない。　①恥　②知　③地　④血　⑤治
（キ）期日までに仕上げるためにテツ夜する。　①鉄　②徹　③撤　④哲　⑤轍
（ク）空気が変わり居心チがわるくなる。　①知　②値　③地　④置　⑤智
（ケ）物事のカイ釈の仕方はたくさんある。　①回　②怪　③解　④改　⑤戒
（コ）自分の顔を対ショウとして鏡を見る。　①省　②商　③照　④称　⑤象

テキスト解答・解説

誤りの選択肢の典型例一覧　〈誤りに名前をつけられるほどのパターンがある！〉

1 **対比混乱の誤り**……本文中で**対比・区別**されていることばを同種のものとして扱ってしまっている誤り。あるいは、主役キーワードの説明を求めている設問で、敵役キーワードを挙げている誤り。**キーワードのグループ分け失敗**の選択肢といってもいい。

2 **同一性分断の誤り**……本文中で同種のことばを対比であるかのように扱ってしまっている誤り。これも**キーワードのグループ分け失敗**。**同質性分断**ともいう。

3 **正しい対比喪失の誤り**……本文中で「A↔B」という対比で記述されているのに、無関係な「C」という要素を勝手にもちこんだり、「C↔D」といった本文にない対比をもちこんでいる誤り。例えば、本文は「善↔悪」という対比で書いているのに、「美」や「醜」という無関係な対比をもちこみ、本文の正しい対比を見失っている誤り。

4 **不当な全称判断**……本文中の記述がないのに、**「すべての○○は」「あらゆる○○は」**と勝手に拡張している誤り。類似した誤りとして**不当な一般化**があります。例えば本文では「バラ」という個別のものに焦点を当てているのに、「花というものは」などと拡張している誤り。

5 **不当な限定判断**……本文中の記述がないのに、**「○○のみ」「○○だけ」**と勝手に縮小してしまっている誤り。類似した誤りとして**不当な矮小化**（わいしょう）があります。例えば本文では「人間関係全般について」書いてあるのに、「近所づきあい」の次元を書いている選択肢。話を不当にちっぽけにしているわけです。

6 **不当な価値判断**（不当な当為（とうい）判断）……本文では「○○である」「○○だ」という事実判断をしているのに、**「○○であるべきだ」「○○にしなければならない」「○○する必要がある」**と勝手に改変してしまった誤り。またAとBの特徴の比較をしているだけなのに、**Aのほうが優れているといった優劣を持ち込んだ**選択肢の誤り。特に論文を読んだり書いたりする上で、「事実判断と価値判断（当為判断）」との違いには気を遣う必要があるんだよ。

7 **部分的指摘の誤り**……本文中では、「**AともにB**」「**Aと同時にB**」「**AしかもB**」と追加表現がなされているのに、「A」だけ、あるいは「B」だけを扱ってしまっている誤り。本文の記述にまったく反しているわけではないため、「高度な」誤りといえます。こういうものに気づけるようになることが、現代文での高得点のカギだよ。

8 **記述に反する誤り**……文字通り、本文中の記述に真っ向から反する選択肢。例えば本文では「AはBである」としているのに「AはBではない」としている誤り。

9 **記述なし**……文字通り、本文中の記述にはいっさい書いてない内容を勝手にのせている選択肢。ただし、「本文の記述に反しているものを選びなさい」といった間違い探しの設問のとき、本文には書いてないだけで、間違いとはいえないということがあるから注意。つまり、「誤り」としては1〜8・10〜13のほうが深刻な誤りといえ、そちらを優先する。

10 **文脈喪失の誤り**……文章中で特定の意味づけをして使っていることばを、**文脈外の「常識」や辞書的な意味**で扱ってしまっている誤り。例えば、「飛躍」ということばを、本文は「行き過ぎ」「誤解」という意味付けをして記述しているのに、勝手に「発展」「前進」というようにとらえてしまっているもの。

11 **物理的スリカエの誤り**……**心理や気持ちを問うている設問で、物理的に説明している選択肢**。小説問題の選択肢としてよく出ます。例えば「暗い気持」を天候や日照量の説明にしてしまっている誤り。

12 **比喩を文字通りに解釈した誤り**……本文中で、たとえになっている表現（擬人法もふくむ）を文字通りにとってしまった選択肢の誤り。比喩は立派な表現技法です。これをリアルに解釈するとずいぶんおかしなことになります。例えば「いやー、歩きつかれちゃって、膝（ひざ）がわらってるよ」なんて表現があるけど、ホントに笑ったら怖い！

13 **具体例は、一段、落ちる**……具体例を挙げている選択肢は、「最も適当」な選択肢を選ぶ際には、選びたくない（ガクっと正解候補から落ちるイメージ）。もっとまとまった語句を盛り込んでいる選択肢が正解になる。

第一講　グループ分けして読む

その１　《評論》　テーマ「芸術論」

《本文の対比構造》

主役＝筆者、岡本太郎の考えるほんとうの芸術

ここちよくない
見るものを圧倒・世界観を根底からくつがえす・生活自体を変えてしまう
飛躍的な創造
一種の緊張・不安な気分

⇕ 主な対比

比較相手＝一般論・ふつう、絵をほめるばあい

うまい・きれい・気持がいい
わからないけれどもきれい
なにかわからないが気持がいい
時代の常識・もちあわせの教養
既成の知識

《解説》

問１《内容理解・選択肢》

文章が正しく読めるようになる秘訣（ひけつ）の第一は、文章は比較・対比で書いてあるという前提で読むことです。次に、実際に読み始めて、出てくる単語、文をグループ分けしながら読み進めます。グループ分けのもっとも基本になるのは、**〈筆者が主張したいことばのグループ〉**（主役グループです）と**〈比較相手のグループ〉**（世間一般の考え方）という分類です。

文章を誤解して読んでしまう典型が、「書いてあることはすべて筆者の意見のはずだ」という思い込みです。しかし、実際には文章というものは、比較・対比で書かれます。筆者は自分が言いたいことだけ独り言のように書くのではなく、自分と違う考えを紹介し、それと比較・対話するように文章を書きます。文章は呼吸しているといってもよいでしょう。「呼」は息をはいて自説を主張しているところ、「吸」は息を吸って自説と違う意見を取り込んでいるところです。比較しながら語るほうが何を言いたいのかクリアになり、説得力も増します。

現代文のベーシック、基盤づくり、ベースメントとしてグループ分けしながら読むという習慣をつけましょう。

筆者の岡本太郎氏は、奇抜な前衛芸術家として知られた方ですが、ちゃんと比較しながら自分の芸術論を語っています。**〈筆者が考えるほんとうの芸術〉⟷〈ふつう、絵をほめるばあい〉**という対比です。

しかも、こうした比較・対比・グループ分けができる、なんらかの目印を見つけることができます。今回の場合、冒頭の「ふつう、絵をほめるばあい」がヒントです。ここから筆者の意見ではない、前フリ、比較相手が紹介されるのだなと推測できます（そういう推測ができることを、みなさんはこの講座で学びましょう）。

次に、第二段落の「ところが」が目印であり、ヒントです。第一段落が前フリで、第二段落から、筆者が考える「ほんとうの芸術」の基準が語られます。したがって、第一段落で挙げられている「うまいもんですな」「気持がいい、なんてたのしいんだろう」「わからないけれどもきれいだ」「なにかわからないが気持がいい」「今までの鑑賞法」に当てはまる①「うまい」・②「気持がいい」・③「たのしい」・④「わからないけれどもきれい」・⑤「今までの鑑賞法」は、筆者が肯定的には使っていない表現ですから、すべてＢです。

一方、第二段落の「見るものを圧倒し去り、世界観を根底からくつがえしてしまい、以後、そのひとの生活自体を変えてしま

うというほどの力をもったもの」は、筆者が肯定的に語りたい「ほんとうの芸術」ですから、これにあたる⑥はAです。

以下、第三段落、第四段落で、今回の対比**〈筆者が考えるほんとうの芸術〉**⟷**〈ふつう、絵をほめるばあい〉**を詳しく言いかえています。こうした対比と言いかえの連続が、文章の基本構造です。

第三段落、第四段落で「ほんとうの芸術」が「ここちよくない」理由が示されます。ほんとうにすぐれた芸術は、「まったく独自」で「飛躍的な創造」がありますから、「時代の常識」にさからいます。そうなると、見るひともたいへんです。見るひとは自分の常識や「もちあわせの教養」「既成の知識」を使って見ようとするけれども、それでは理解できないからです。そのため「緊張」を強いられますし、「不安な気分」になったりもします。

こうしたわけで、⑦「時代の常識」・⑨「もちあわせの教養」はB、⑧「緊張」・⑩「不安な気分」はAです。

「緊張」や「不安」は、ふつうは良いものとして肯定的には扱われませんが、本文では「ほんとうの芸術」にふれるときの大事なことばなのです。常識どおりのことしか言わないのなら、本など書きませんから、〈世間一般の考え⟷筆者の考え〉が代表的な対比の構造になります。

模範解答

問１　①＝B　②＝B　③＝B　④＝B　⑤＝B　⑥＝A　⑦＝B　⑧＝A　⑨＝B　⑩＝A

第一講　グループ分けして読む

その２《評論》　テーマ「学問論」

《本文の対比構造》

主役＝筆者の見解

この世界には、かしこい人もいればおろかな人もいれば、貧しい人もいれば富裕な人もいる事実
『実語教（じつごきょう）』

賢人と愚人は学んだか学ばなかったかの違い

主な対比

比較相手＝一般論

天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らず

《解説》

その2では、筆者の意見とその他の意見を区別しグループ分けして読む練習を、かの有名な『学問のすすめ』でしてみましょう。これは本当にいい練習になります。一〇〇年以上も前に書かれた文章ですが、やはり、比較・対比です。ところが、多くの人が誤解して読んでいます。冒頭の「天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らず」を筆者の福沢諭吉の意見だと勘違いしています。だって、本の中に書いてあるじゃん、というわけです。しかし、書いてあってもすべてが筆者の意見とは限らない、比較相手かもしれない、前フリかもしれない。そういう前提で読んでいくことが、文章を正しく読む秘訣(ひけつ)でしたね。

福沢諭吉の『学問のすすめ』は、「天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らず」を力説した平等主義の書物だ、と多くの人が誤解しています。当時のウルトラ・スーパー・ベストセラーですが、きわめて多数の人が間違って理解している……

問１《内容理解・選択肢》

さあ、みなさんは正しく読んでやりましょう。「天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らず」は「といえり」と付けられているように、「と言われている」「世間一般には言われている」という意味です。①「人間は生まれながらに平等で人に上下の差はない」は、この一般論ですから、筆者の意見ではありません。②の「富豪や貧者などの上下の差がある」、③の「人間には賢者と愚者の区別が～」は、事実ですが、それぞれ「生まれながらに」「もともと最初から」が×です。生まれたあと、学ぶかどうかで差異がつくられるのです。だからこそタイトルも『学問のすすめ』です。したがって④が正解です。⑤は「勉強しなかったためむずかしい仕事をする者がいる」としていますが、勉強した者が「むずかしい仕事」をすることができ「身分重き人」と尊敬されるのです。したがって、×です。

④以外のすべてが、グループ分けを間違えたり、分けたものを混ぜたりしています。こういう選択肢を対比混乱の誤りと呼びます。

模範解答

問１＝④

第二講　グループ分け＋言いかえの連続に注目

その１　《評論》　テーマ「身体の哲学」

《本文の対比構造》

主役＝筆者の見解

身体が憶えた智恵や想像力
身体で学んだ判断
からだで憶える規範や原理
生の社会的な型
生の基本、生のベーシックス
瀬戸内寂聴「躾は当然」

主な対比

比較相手＝一般論

こころのケア・こころの教育

《解説》

問１《内容理解・選択肢》

少年や少女の事件の際、「こころのケア」「こころの教育」を訴えるのは、筆者の意見ではなく一般論です。『悲鳴をあげる身体』というタイトルからもうかがえるように、からだ・身体の声に注目することのほうが重要と、筆者は考えているようです。つまり、「こころ」に問題があったからなにか事件を起こしたというより、「からだ」レベルの問題ではないかと言いたいわけです。「からだ」レベルの具体例として「お箸をちゃんともてる、肘をついて食べない、顔をまっすぐに見て話す、脱いだ靴を揃える」、「とりあえず、ごはんはかならずいっしょに食べる」こと、また瀬戸内寂聴さんの幼少期の「躾」の体験などを挙げています。

したがって、①「こころのケアやこころの教育」はＢ、②「身体が憶えた智恵や想像力」③「からだで憶える規範や原理」④「顔をまっすぐに見て話すこと」はＡです。

また「お箸をちゃんともてる」などの例にみられるような型・形について「文化には、ひとの生を象る型というものがある。生に形をあたえる型というものがかならずあるはずだった」と好意的に表現しています。したがって、⑤「生に形をあたえる型」はＡ。筆者は、現代ではそうした型が通用しなくなっているという点に危機感を感じているようです。

模範解答

問１　①＝Ｂ　②＝Ａ　③＝Ａ　④＝Ａ　⑤＝Ａ

第二講　グループ分け＋言いかえの連続に注目

その２　《評論》　テーマ「服の文化」

《本文の対比構造》

主役＝筆者の見解

服装＝コミュニケイションの媒体

- 社会的位置づけを語る
- 氏素性を語る
- 性別を語る
- 職業を語る

主な対比

比較相手＝一般論

ことばをつかったコミュニケイション

《解説》

ふつう、何かを伝えるコミュニケーションというと「ことば」を思い浮かべがちだが、服装もコミュニケーションの媒体、手段だというのが筆者の見解で、もうすでに対比が含まれています。

問１《内容理解・語彙力・選択肢》

おしゃべりによる意思疎通を〝オーラル・コミュニケーション〟とすれば、服装で自分は何者かを伝えたり了解したりする意思疎通は、〝ビジュアル・コミュニケーション〟と言えます。目で見て伝達ということです。これに一番近いのは、①の「目は口ほどに物をいう」です。正確には、ことばに出さなくても、目つきや目の表情で言いたいことがわかるという意味です。意味の受け取り手も耳で聞いたのではなく、目で見ているわけですから、これが正解です。

他のものを解説します。「壁に耳あり障子に目あり」は、どこでだれが聞いているか見ているかわからないという意味です。ひそひそ密談してもばれるぞという警告です。「人の噂も七十五日」は、人のうわさ話も長くは続かない、しばらくすれば消えるものという意味です。今日のネット言論で傷ついている人のなぐさめになるかな。「死人に口なし」は、あの世に行った死者はもう何も語れないため、この世に影響する証言などはできないという意味。「顔で笑って心で泣いて」は、表面上はにこやかにとりつくろっても、本当は悲しんでいるということ。切ないね。「沈黙は金」は、本来「沈黙は金、雄弁は銀」というセットです。説得力ある雄弁は重要だけれども、だまるときを知ることはもっと重要だという意味です。「言葉多きは品少なし」は、そのままの意味ですね。品とは、人が本来もっているよい性質、品位・品格のことです。似たものに「巧言令色、鮮し仁」があります。うわべだけ飾った言葉づかいで、ぺこぺこする者には、心や誠意がないということです。

問２《空欄補充・語彙力・選択肢》

空欄直後に言いかえた例があります。「ホテルその他のサービス業の場合、お客の服装をじろりと一べつするだけでそのお客の氏素姓がわからなければ一人まえでない」。これがヒントであり根拠です。とくに「じろりと一べつするだけで」が最大のヒントで、③の「一目瞭然」と決まります。ひと目見ただけではっきりわかるという意味ですから。②の「簡単明瞭」と迷ったかもしれません。例のなかに「一人まえ」という表現があり、だれでもが「簡単」にできるというわけではありません。サービス

業の経験を積み重ねて、一日瞭然にお客さんの人となりをつかめてやっと「一人まえ」なのです。

他のものを解説します。「一瀉千里」は、物事や文章がいっきに進むこと、はかどることです。「以心伝心」は、言葉によらずに気持ちが通じあうことです。「一視同仁」は、等しく平等に愛情をそそぐことです。

問３《語彙力》

「氏素姓」は「氏素性」とも書き、読みは「うじすじょう」。生まれ育ち、家柄、社会的地位などを指します。

問４《空欄補充・選択肢》

Ｄ　空欄直後に具体例があり、空欄を言いかえています。「～男がズボン、女がスカート～着ているもので男か女かがわかる。～男はますますその男らしさを、女は女らしさを服装によって語らせる～性の強調～男と女の服装は、ぐんときわだってちがいのあるものになった」とありますから、④の「性別」です。①「時代」や③「民族」とした人がいるかもしれませんが、それらは、よりいっそう細かい例の一部を指しているだけです。

Ｅ　こちらも空欄直後に具体例があり、空欄を言いかえています。「それがいちばんはっきりと制度化されたのは軍服である。どこの国でも、軍人というのは戦場でたたかうことをその職業としており」が根拠で②の「職業」と決まります。⑥の「地位」と答えた人がいるかもしれません。でもそれは「敵味方の区別」「上官、兵卒の区別」などよりいっそう細かい例の一部を指しているだけです。

模範解答

問１＝①　問２＝③　問３＝うじすじょう　問４　Ｄ＝④　Ｅ＝②

第三講　言いかえの連続に注目（随筆編）

その1　《随筆》　テーマ「人間の背中」

《本文の対比構造》

主役＝背中・後ろ姿

後ろ向き・無防備な背中
言葉を失う・心もとない
閉ざされた扉
その人の無意識があふれている場所
見てはならないものを見たよう
後ろめたい感じ

主な対比

比較相手＝正面

前から＝目と目があう
会話が進む
そのひとの世界に合流

《解説》

問１《空欄補充・選択肢》

Ａ　待ち合わせ場面です。相手が「後ろ向きに立っていたような場合」とあります。これを言いかえて「Ａ」からそのひとに近づいていく」わけです。さらに「前からだったら」という対比も続きます。したがって③の「背後」です。①の「側面」では、これらの言いかえと対比の軸にのりません。ズレます。④の「一定の距離」も同様にズレています。距離は比較になっていません。⑤の「仮の姿」もズレています。〝本当のすがた⟷仮の姿〟は比較にも言いかえにもなっていません。こういう間違いを正しい対比喪失の誤りといいます。

Ｂ　今度は「背中」の対比、正反対です。あるいは「つきあってきた」なじみの方です。したがって②の「正面」です。

問２《内容説明・語彙力・選択肢》

背中に向かう時の気持ちとして、「迷いながら」「言葉を失ってしまう」「何かを恐れている」などが挙げられています。傍線の「心もとなく」はこれらのグループです。したがって②の「たよりなく、何か不安な状態」が正解です。①の「気のおけない、遠慮のいらない状態」は、〝ハーイ、元気？　イエーイ、今日も楽しくいこうぜい！〟という感じで正反対。③の「気にかかることがない状態」も不安なしですから×。これら①と③は、なじみの「正面」のグループという言い方もできます。対比混乱の誤りということになります。④の「気持ちが焦ってあわてる状態」はなにがおかしいか。本文では、待ち合わせの時間に遅れて、時間的に焦っているわけではないということです。〝時間通りで安心⟷時間に遅れて不安〟という対比ではないということです。正しい対比喪失の誤りです。

問３《表現技法・選択肢》

これら様子や振る舞いを客観的にではなく感覚的（音が聞こえるように、目に見えるよう）に表現する技法を擬態語といいます。雨を表現するとき、一時間当たり二〇〇ミリではなく、ざーざーと雨が降る、体重一〇トンの巨体を時速三キロでではなく、のっしのっしとアフリカゾウが歩くと表現するのも同じ擬態語です。音の表現は、厳密には擬声語・擬音語といいますが、大き

くとらえれば擬態語の仲間です。

他のものを解説します。擬人法は、人間でないものを人間であるかのように表現する技法。例えば、〝お花畑がほほえんでいる〟〝チューリップがコーラスしている〟など。倒置法は、主語述語や飾ることばと飾られることばの順番を変える技法。〝一人でなしとげたのです、彼が〟〝おいしいサラダ・ドレッシングだ、とても〟など。順番を変えて、強調する表現技法です。直喩は、「まるで」「ように」などを付けて、何を何にたとえているのか直接明らかになるようにした比喩です。〝まるで米つぶのような小さな文字だ〟など。

問４《語彙力・選択肢》

直前の「見てはならないものを見たようで」の言いかえで、罪悪感、気がとがめるといった気持ちです。したがって、②の「自分が悪いことをしているかのような気持ち」が正解です。①の「罪悪感をふりはらう」では正反対です。③の「相手を後ろから攻撃するときの意地悪な気持ち」では、まったく罪悪感のかけらもありません。④の「相手の後ろ姿に親近感をいだくときの気持ち」はどうでしょう。親近感はむしろ、正面ですね。対比混乱の誤りです。

模範解答

問１　Ａ＝③　Ｂ＝②　問２＝②　問３＝②　問４＝②

第三講　言いかえの連続に注目（随筆編）

その２《随筆》テーマ「子供の心理」

《本文の対比構造》

主役＝子供の発達段階について新名称の提案

「電車段階」「乗り物段階」

電車を始めとする大型乗り物を介して社会に目を開く

（例）井の頭線の急行列車が、一歳少し前の乳児を言葉の世界へと力強く誘った

主な対比

比較相手＝一般的な精神分析学用語

ジャック・ラカン博士の「鏡像段階」

《解説》

問１《空欄補充・選択肢》

「「[A]段階」ないしは「[B]段階」」となっています。「ないしは」は「あるいは・または・ないし」と同じで言いかえを挙げる言葉です。つまり、まずAとBが言いかえ関係、似た言葉になります。続いて空欄直後には「赤ん坊はまず電車を始めとする大型乗り物を介して社会に目を開き、そこにあふれるパワーとエネルギーに強い憧れを抱く」とあります。さらにこの文章全体が、電車を通して「言葉と社会性」が引き出される様子をユーモラスに描いています。したがって、①の「A　電車　B　乗り物」に決まります。②と③の「自動車」や④の「自転車」は出てきませんし、「脱線だあー」とも結びつきません。

問２《空欄補充・接続語・選択肢》

空欄直前の「運転士さんと化した赤ん坊は以後、自らの日々の暮らしをことごとく鉄道関係用語によって言説化するようになり」を具体的に言いかえて、「何であれずっこけることはすべて、きかんしゃトーマスにならって「脱線（＝だっちぇん）だあー」と表現される、等々」としています。そうです、具体例を導く接続語ですから、③の「たとえば」と決まります。

模範解答

問１＝①　問２＝③

第四講　選択肢への対応

その１　《評論》　テーマ「文学論・俳句論」

《本文の対比構造》

主役＝「鶏頭の十四五本もありぬべし」をめぐる筆者の見解

- 無邪気さ・健康さ・たくましさ
- 正岡子規の身体の状態は、この句になんらの決定的な影響を及ぼしてはいない

⇔ **主な対比** ⇔

比較相手＝他の評論家

- 病者の論理＝正岡子規の病気を強調した批評
- 西東三鬼
- 山口誓子

《解説》

問１《傍線部説明・選択肢》

傍線部は筆者側の意見です。筆者は、「僕がこの句から受け取るものは、反対に健康さそのもの」とも語っています。これは「十四五本の強健頑丈な植物の群立が病子規の消えなんとする生命を圧倒する」「瀕死に追いこんでいる」「病者の感傷」「病者の論理」などの西東三鬼や山口誓子の解説の正反対です。それで傍線部「子規の身体の状態は、この句になんらの決定的な影響を及ぼしてはいないのである」と語っています。

選択肢を吟味してみましょう。①は「実際の病状とは無関係になされた」はOKでしたが、「子規の病状はほぼ安定しており」がマズイです。これでは身体の状態が関係してしまいます。たまたま体の調子が良かった時にこの句を詠んだということになってしまいます。「病者の論理」です。対比混乱の誤りです。③の「病気を忘れることができた」もこれに近いです。そもそもこの俳句と病気は関係ないというのが筆者の考えなのに、これでは一時的に病気を忘れて元気になったかのようです。これも基本的に「病者の論理」です。

④は「すでに死を覚悟し」が×です。筆者は「死までにまだ三年を余す」と語ってますよ。したがってこれも「病者の論理」です。対比混乱の誤りです。⑤は「俳句はもともと、作者の身体の状態とは切り離されたところに成立するものであり、病気などとは無関係なので」とやってしまい、不当な一般化の誤りです。正岡子規の「鶏頭の十四五本もありぬべし」のことが話題なのに、そこから外れて、そもそも俳句はだれがつくっても身体とは関係ないのだとしてしまいました。「不当な一般化」などという間違いのパターンがあるんだ、ということを知っておいてくださいね。正解は、②の「子規が鶏頭と一体化し、鶏頭の健康な生命力を表現しえたのは、病状のよしあしと直接には関係ないので」です。

模範解答

問１＝②

第四講　選択肢への対応

その2《評論》テーマ「写真論」

《本文の対比構造》

主役＝写真家ウォーカー・エヴァンスの新しい試み

『サブウェイ・フォトグラフス』
ニューヨークの地下鉄乗客の写真
被写体の偶然性＋撮影の自動性
都市の自画像

⇕ **主な対比**

比較相手＝エヴァンスの従来の仕事

アメリカ中西部の貧困地域を撮影
キューバやアメリカ南西部といった、
広い領域を対象

《解説》

問１《傍線部説明・語彙力・選択肢》

傍線部前後に、「一九四〇年頃」に撮影して、「撮影後二〇年あまりのあいだ写真家のアトリエに眠り続け」「長いあいだ発表されなかった」とあります。したがって、「日の目を見た」というのは、「発表」され、「アトリエに眠り続け」る状態から世に出たということです。したがって、①の「それまで埋もれていたものが初めて世間に知られる」が正解です。こうした言いかえや対比が根拠やヒントになるものです。また、それがわかると間違いの選択肢がなぜ間違いかも説明できるようになります。

②は「無価値とされていたものの真価が理解されるようになる」となっていますが、「無価値」と「真価」は本文では比べられていません。③は「一転して脚光をあびる」はＯＫだったのですが、「あまり人気がなかったもの」という比較・対比が×です。④は「かつて勝ち得ていた高い評価」「もう一度獲得する」のコンビネーションが×です。いずれも正しい対比喪失の誤りです。

問２《傍線部説明・選択肢》

「写真家の意図」は「いくつかの文章で伝えられている」とあります。すぐにその内容が語られていますね。「地下鉄のなかに乗ってくる人々という被写体の偶然性、そして撮影側の動きがほとんど介在しないという、一種の自動性に興味をもって撮影したらしい」ということです。さらに次の段落で、筆者がその意図について解説しています。そこではエヴァンスの以前の仕事と比較しながら、地下鉄車内での撮影が「自由度」の点で縛りがあり、「自ら拘束を課した」ものと語っています。

これらが根拠・ヒントになり、④の「地下鉄で誰が被写体になるかわからないという偶然性と、撮影の自由度の限定にかえって関心をもったこと」が正解になります。

他の選択肢を吟味してみます。①の「アメリカ中西部やキューバの貧困地域の撮影」は、地下鉄写真以前の仕事ですね。違うものを混ぜてはいけません。対比混乱の誤りです。また、地下鉄写真が「その貧困救済のための資金集めにつなげようとのねらい」で撮影されたものかどうか、本文中には記述がありません。なにより、本文に書かれた「意図」の説明に反しています。この点では、記述に反する誤りです。

②の「二〇年あまりという長い期間公表をひかえる」は事実ですが、その「ことによって、かえって世間の注目を集めようと

した」かどうかは本文に記述がありません。発表しなかった「理由は明らかでない」と文中にあります。その理由を勝手に推測し決めつけているこの選択肢は記述に反する誤りです。なお、映像の画面では「写真家の意図（赤色）」と区別するために、「二〇年あまりという長い期間公表をひかえること」を第3の色（みどり色）にしてあります。この点では、色違い、つまり対比喪失の誤りです。

③の「被写体の偶然性と撮影の自動性」はＯＫです。しかし、「従来とは異なる写真を撮ろうとする美学的なねらい」は×です。本文には「美学的な意図や主題によるものではないと写真家自身は書いている。ブレずにちゃんと写っているコマを選んだということだろうか」とありますから。記述に反する誤りです。なお、映像の画面では「写真家の意図（赤色）」と区別するために、「美学的なねらい」を第3の色（みどり色）にしてあります。この点では、色違い、つまり対比喪失の誤りです。

問３《空欄補充・選択肢》

問２の解説でもふれましたが、空欄を含む段落は、エヴァンスのかつての仕事との比較になっています。本文に「それまでキューバやアメリカ南西部といった、広い領域を対象にした写真家」とあります。これらと「地下鉄という閉鎖空間の誰が前に座るかわからないという状況」はまさに正反対です。本文にも「それにひきかえ」という対比を知らせる表現があります。このように「広い領域」と「閉鎖空間」は「対照的」なのです。正解は④です。英語のコントラストです。ちなみに〝対象的〟だと英語のオブジェクト・オブジェクティブで研究対象にする、意識が向かう対象物にするという意味です。また〝対称的〟だと、図形的に左右のバランスがばっちりというシンメトリの意味ですからね。それぞれ違いを理解しておいてください。

他の選択肢を吟味します。「対照的（正反対＝違うものを比べるという意味）」が正解なのに対し、①「類似的」ではよく似たものを比べる、ならべるという意味になってしまいます。これでは対比混乱の誤りです。「対照的」が英語でコントラストなのに対して「類比的」はアナロジーです。②「必然的」はどうでしょうか。「広い領域⟷閉鎖空間」が正しい対比＝対照でしたね。〝必然的⟷偶然的〟という対比にはなりません。こういう間違いは正しい対比喪失の誤りです。③「論理的」も同様です。〝論理的⟷非論理的・感情的〟という対比ではないからです。はい、正しい対比喪失の誤りです。

模範解答

問1＝①

問2＝④

問3＝④

第五講　ここまでの成長確認

《評論》　テーマ「漫画と社会・マンガとアメリカ」

《本文の対比構造》

主役＝漫画『ピーナツ』

チャーリー・ブラウンとスヌーピー
勝ち誇らない・仲間の共同体を保つ
漫画の特徴＝歴史的な時間は流れない
非歴史的な時間、繰り返しのなかに意味のある、日常という確実な時間

⇔ **主な対比**

比較相手＝表面上のアメリカ

いつも競争するアメリカ人
勝ち誇るアメリカ人
社会の変動
変転極まりないアメリカ

《解説》

問１《傍線部説明・語彙力・選択肢》

「嘲笑を買っている」理由が直後に示されています。「野球をしてもフットボールをしても失敗ばかり」がそれです。したがって、③「ばかにされる」が正解です。「嘲」は単独でも「あざわらう」「あざける」と読み、相手を見下してせせら笑うことです。したがって、①「喝采をあびる（称賛される・ほめたたえられる）」や④「人気を得る」のようなプラスの意味ではありません。②の「同情される」は、やや見下されてはいますが、思いやりが入ったプラスの言葉ですから、不適切です。なお、映像の画面では、マイナスの表現（否定的なことば）は第３の色（みどり色）にしています。一方、プラスの表現（肯定的なことば）を赤色にして区別しています。この点では、①②④は、色違い、つまり対比喪失の誤りです。

問２《空欄補充・選択肢》

Ｂ　空欄直前の「空の英雄〜に憧れてその役になりきってしまう」が根拠・ヒントです。スヌーピー自身は「犬の訓練学校の落第生で」英雄ではありませんが、想像でその役になりきるわけですから、②の「空想家」が正解です。なお、映像の画面では「憧れ」「空想」（赤色）と区別するために、「犬の訓練学校の落第生」という現実を第３の色（みどり色）にしてあります。この点では、①「現実派」は、色違い、つまり対比喪失の誤りです。③「反骨者（何かに歯向かう人）」、④「無法者（法律に従わない人）」は、正しい対比喪失の誤りです。なぜなら〝従順・素直・遵法⟷反骨・無法〟を比較している文章ではないからです。

Ｅ　「それまでの私のイメージ」や「アメリカといえば勝ち誇る人びとの顔が浮かぶ」の言いかえになります。したがって、③の「先入観」が答えです。先入観は、最初の印象などからつくられる固定観念で、先入見とも言います。

問３《傍線部説明・選択肢》

「激しい競争社会、誰にも前向きの姿勢しか許さない社会、とりわけ繁栄と反抗が渦を巻く六〇年代前半当時のアメリカ」の「背後」にあるものの説明です。すぐ近くにはこれの言いかえがありません。その分、少し難易度が上がっています。答えのヒント

がいつも目の前にぶらさがっている問題ばかりでは、トレーニングになりませんからね。ともあれ、必ず言いかえ部分はありますから、それを探すように文章を読み進めることになります。

空欄Ｅを含む段落に「表面的には競争に明け暮れていると見える人びとが、本当には何をしてるのかわかるような気がし始めたのである」とあります。解答の根拠・ヒントが近いと予想できますね。この次の段落に、チャーリー・ブラウンの例を挙げながら「いつ見てもゲームを作ろうとしている。仲間の気分を引き立て、場面をしつらえ」、「彼の目的は仲間の小さな共同体を保つことであるから、たとえ自分がゲームに負けても目的は果たしたことになる」とあります。したがって、①の「ゲームを作り、小さな共同体を維持する」が正解です。

他の選択肢を吟味してみます。②は「ゲームに常に勝利するために」が×です。勝利は目的ではありません。なにより「勝ち誇る」という表面上のアメリカのイメージに近くなってしまいます。つまり対比喪失の誤りです。③は「ゲームに参加することに意味を見つける」とありますが、「参加」ではなくゲームを作るのです。とても積極的なのです。記述に反する誤りです。④は「新しいゲームの創作」としていますが、ゲームを〝作る〟の意味が違います。文章、文脈ではゲームをセッティングすること、場を作ることです。新作ゲーム作っちゃったよ、発売しようかな、一〇〇万ダウンロードねらうぞという意味ではありません。こういう間違いを文脈喪失の誤りと言います。

問４《傍線部説明・選択肢》

アメリカが競争社会であることは、第二段落の「激しい競争社会」という表現にも、傍線直後の「アメリカ人と同じ競争を強いられ」という表現にも出ています。では、「二重」というからには、もう一つ、どんな競争か。「アメリカ人と同じ競争を強いられ」の後に、追加を意味する「しかも」という接続語があります。さて、何を追加しているかというと、「はるかに遅れた出発点に立たされていた」です。つまり、日本とアメリカの差、競争のことを語っているのです。その根拠は、傍線部の手前にある「両国の貧富の差は大きく」という表現です。というわけで、③の「アメリカ国内での競争と日本対アメリカの競争」が正解になります。

他の選択肢を吟味してみます。①は「アメリカ国内での体力的競争と知的競争」としていますが、「体力的競争」が×です。

傍線部直前に「アメリカの知的社会」とありますから、記述に反する誤りです。②は「アメリカ人との競争」はＯＫですが、「日本からの選抜メンバーになるための競争」が×です。そんなこと書いてないし、書いてあることとも反します。記述に反する誤りです。④の「早くアメリカに渡る競争とその後の生活での競争」はかすりもしません。飛行機で渡米するか船で行くか競争でもしたのですか。そんなこと書いてないし、書いてあることとも反します。記述に反する誤りです。

問５《傍線部説明・語彙力・選択肢》

傍線を含む「揶揄されてもそれで仲間の気が晴れれば、彼は一座の主人役を十分に務めたことになる」と直前の「たとえ自分がゲームに負けても目的は果たしたことになる」は言いかえ関係にあります。「揶揄されても」は〝ゲームに負けてばかにされても〟の意味です。また知識としても「揶揄」がからかう、皮肉を言うという意味だということは知っておきましょう。したがって、答えは③です。

他の選択肢を吟味してみます。①の「やり玉に挙げる」は、非難や攻撃の対象としてせめたてることですが、否定の意味が強すぎます。②「ほめちぎる」というプラス評価になっていて間違いです。④は「邪魔する」となっていますが、こんな意味は揶揄にはありません。

問６《全体の内容理解・選択肢》

この文章の最重要メッセージは後半の段落にあります。そこには、〝変転極まりないアメリカ⟷変わらない漫画〟〝歴史に翻弄⟷非歴史的な漫画・日常の繰り返しの意味を描く漫画〟という対比が何度も言葉をかえながら繰り返されます。したがって、②の「漫画は歴史的変化とは関係なく日常を繰り返し描くことができる」が正解です。

他の選択肢を吟味してみます。①の「漫画は歴史や社会の変化を豊かに説明することができる」では、漫画と歴史が対比でなく、同じグループになってしまっています。④の「漫画は歴史の流れのなかでその影響をいやおうなしに受けてきた」も同様です。これらは対比混乱の誤りです。③は「漫画は歴史の流れとは関係なく」はＯＫですが、「非日常的なヒーローを描く」が×です。そういう漫画も世の中には多数あります。私もアメリカンコミックは大好きですが、本文の漫画は「日常」のグループで

す。

記述に反する誤りです。

模範解答

問１＝③

問２　Ｂ＝②　Ｅ＝③

問３＝①

問４＝③

問５＝③

問６＝②

第六講　長めの文章をグループ分け

その1　《評論》　第一講　その1の続き

《本文の対比構造》

主役＝筆者、岡本太郎の考えるほんとうの芸術

おそろしい未知の世界
悲壮な顔・苦痛そのものの表情
歓喜・激しさをもった芸術
いやったらしい・不協和音
はげしくて、すさまじい美観

↕ 主な対比

比較相手＝一般論
ふつう、絵をほめるばあい

既成の常識
「きれい」「ああ、いいわね」
無責任な感動
ここちよい
ほほえましく、優美なもの

《解説》

問１《内容理解・選択肢》

筆者のメインメッセージとその比較相手とをグループ分けして読む、分類して読む練習を重ねましょう。前例や伝統を容赦なくぶち破ることで知られる芸術家、岡本太郎氏ですが、対比させながら文章を書くという基本路線をしっかりまもっています。「いやったらしい」とか「不協和音」とか、ふつうは肯定的には使わない表現を、筆者は「ほんとうの芸術」にかかわるものとして使っています。現代文学習、現代文入試問題への解答においても、文字通り、私たちの一般常識で決めつけず、文章自体に従って分類してやりましょう。こうした練習を通じて、文章が正しく読めるようになります。

各単語の分類については、前ページの《本文の対比構造》にまとめてあります。

模範解答

問１　①＝B　②＝A　③＝A　④＝A　⑤＝A　⑥＝A　⑦＝A　⑧＝B　⑨＝A　⑩＝B
⑪＝B　⑫＝B　⑬＝A

第六講　長めの文章をグループ分け

その2《評論》テーマ「認識論」

《本文の対比構造》

主役＝筆者の見解

何かについて考えるとはどういうことか
を考える
例「平和について考えるとはいったいどういうことなのか」について考える
「考えること自体について」考える

心の働きは多様で複雑
わかるとはどういうことか

難しい問題は側面から

対比

比較相手1

人間は考える葦である（パスカル）
何かについて考えること
例「平和について考える」

比較相手2

人間の特徴
二本足で歩く・手を使う・笑う・喋る

比較相手3

難しい問題を正面突破
演繹　帰納　還元などの難しい話

《解説》

問１《内容理解・選択肢》

第六講その２もその１と同様に、キーワードの分類です。前ページ《本文の対比構造》では、比較相手がいくつも出ていますが、簡潔にいえば、〝筆者のメインメッセージ⟷その他の意見〟です。ちょっと複雑な印象を与える文章も、筆者と意見とその他で書いてあるという方針で読み進めることができます。このベーシック講座では、いろいろなタイプの文章、いろいろなテーマの文章、いろいろな筆者の文章を素材にしながら、対比で読む・グループ分けして読む訓練ができるようになっています。

各単語の分類については、前ページの《本文の対比構造》にまとめてあります。

模範解答

問１　①＝B　②＝B　③＝B　④＝B　⑤＝A　⑥＝B　⑦＝B　⑧＝B　⑨＝A

第七講　長めの文章で言いかえに注目

その1　《評論》第二講　その1の続き

《本文の対比構造》

主役＝筆者の見解

歌舞伎の師匠の発言

芹沢俊介の記事

なにか身体の深い能力

身体に深く浸透している智恵や想像力

身体のセンス

主な対比

比較相手＝近年の傾向
「悲鳴をあげる身体」

身体で習うより質問

理屈を訊いてわかろうとする姿勢

（例）歌舞伎を教わる人たちの近年の様子

身体の深い能力、身体に深く浸透している智恵や想像力が伝わらない

身体のセンスがうまくはたらかない状況

自分の身体への攻撃

（例）ピアシング・摂食障害

《解説》

問１《内容理解・選択肢》

筆者は身体レベルの深い知性を重視しています。また、身体水準で習うこと、学ぶこと、いわば身体で型を真似（まね）ながらまなぶ、〝まねぶ〟という本来の学習の在り方を大事だと考えています。ところが、近年それが失われつつある。これがこの文章の大きな対比構造です。

①の「言葉で訊く」、②の「質問の渦」、④の「理屈で説明」は、身体で習う側の正反対ですから、ことごとくＢです。一方、③の「習う」、⑤の「身体の深い能力」、⑥の「身体のセンス」こそ筆者重視のキーワードで、Ａです。

そうした「身体のセンスがうまくはたらかない」で、「身体からなにやら悲鳴のようなものが聞こえてくる」事例に、ピアシングや摂食障害などが挙げられています。これは「自己の体への小さな暴力」です。⑦の「自己の体に負荷をかけ続ける」や⑧の「自己攻撃」はこちらのよくない状況、傾向のグループです。もちろん筆者は肯定的には使っていませんから、Ｂです。

模範解答

問１　①＝Ｂ　②＝Ｂ　③＝Ａ　④＝Ｂ　⑤＝Ａ　⑥＝Ａ　⑦＝Ｂ　⑧＝Ｂ

第七講　長めの文章で言いかえに注目

その2　《評論》　第三講　その2の続き

《本文の対比構造・ユーモアを生むしかけ》

主役＝大げさに表現

踏切上でとんでもないアクシデントが出来
始発電車
驚愕のつぶやき
想像上のカタストロフ
大げさな想像
鉄路に生きるものとしての自覚
こちらの虚を衝くひとことだった

⇕

比較相手＝日常的な場面

居間のプラレールの遊び
「ああっ、こんなところに、ちんかんせんが……」
「ぶーぶーにのりたーい！」

《解説》

問１《傍線部説明・選択肢》

　ユーモアエッセイです。ユーモラスに笑いをとる、ニコリとさせるしかけにはさまざまありますが、ひとつは〝落差〟です。古典的コメディの例を挙げれば、偉そうに、あるいはすました上品な紳士が、道でバナナの皮を踏んであられもなく、スッテンと転ぶシーンなどです。みすぼらしい感じの人が転んでも悲惨なだけで、ユーモアの笑いは生まれません。せいぜい嘲笑です。

　本文は、日常における赤ちゃんの成長ぶりを描いていますが、その表現がいちいち大げさでくすっとさせます。

　傍線の「鉄路に生きる者としての自覚もがこめられているかのようで、なかなか頼もしい」もそうです。本物の鉄道ではなくミニチュア電車での遊びをめぐる子供の反応に対して、筆者である父親が「鉄路～」などと大げさに表現しているのです。また、「電車段階」と筆者が表現しているように、子供の心理的成長のある段階（電車に夢中になることを通じて成長するステージ）をめぐってのものです。多くの男の子が、そうした成長段階を経るらしいということで、そうした男の子がかならず〝鉄っちゃん〟になるわけでも、まして鉄道関係の職に就くわけでもありません。したがって、④の「『電車段階』と呼べるような幼児の心の発達段階にかかわる事例を、おおげさに表現することでユーモアを出している」が正解です。

　他の選択肢を吟味してみます。①の「将来、我が子が鉄道技師や運転士や運輸管理などの職業につく適性がある」とか②の「将来の鉄道マンたる資質」では、子供の心理の発達段階の話でなくなり、本当の鉄道関連の仕事と結び付けてしまっています。「鉄路～」がユーモアでなくなります。比喩の誤解（比喩を文字通りに解釈した誤り）といえるでしょう。③の「自作自演の惨事を演出して父に見せる我が子の想像力と行動力」も比喩の誤解（比喩を文字通りに解釈した誤り）です。「自作自演の惨事」という表現は、たしかに本文中にありますが、本当に父親を観客として「演出して」いるわけではありません。脚本を書き上げ、それを自ら舞台で演じるかのような「想像力と行動力」はことごとく誤りです。父親はわが子を観察し、大げさに表現しているだけなのですから。さらに、この傍線箇所は父親の「不手際」についてのものです。したがって、そもそも、子供の「自作自演」についてのものでさえありません。

問２《全体の理解・選択肢・正誤問題》

①の「電車の「脱線」の遊びは、幼児の精神を鍛え、成長させるなど重要な意義をもつと思われる」は、「「電車段階」において幼児がわがものとする重要な概念、それが～「脱線」にほかならない」や「「脱線だあー」の決まり文句でしめくくられる想像上のカタストロフはその都度、天地がひっくり返るような規模の事件として幼児の精神を揺るがし、鍛えているのではないか」といった本文の指摘に適合しています。○です。

②は「幼児の心に傷を残すと心配される」が×です。むしろ、心の成長ですよ。記述に反する誤りです。③は「車掌が、電車を見送る幼児に手まで振ること」を「過剰なサービス」「父親の立場を奪う」などと否定的に表現していますが×です。むしろほほえましい場面でしたよね。記述に反する誤りです。④は「筆者自身が自動車免許をもたないのは、その父親が車マニアだったという十分な理屈がある」としていますが、本文には「だから自分はもう車の運転なんかするまでもないんだと理屈にならない理屈」や「しかし実はもちろん単に面倒くさかったからのこと」とありますから、×です。記述に反する誤りです。⑤の「電車をはじめとする大きな乗り物には、とりわけ乳幼児期の男児を引き付ける魅力があるといえる」これは全文を通じてその通りといえます。○です。

模範解答

問１＝④　問２　①＝○　②＝×　③＝×　④＝×　⑤＝○

第八講　実力確認の問題

《随筆》　テーマ「哲学　自己と他者」

《本文の対比構造》

主役＝筆者の見解

他者こそが〈わたし〉を知るための
第一の鏡
マックス・シェーラー
人間の羞恥心は《天然の衣装》

主な対比

比較相手

他者が不在
羞恥心なき事例
1　地下鉄車内で化粧する若い女性
2　親睦の食事の席で熟睡してしまった自分

《解説》

問１《空欄補充・接続語・選択肢》

Ａ　空欄直前の「中間のわたしからすれば、ふたりの女性は親でも妻でも姉でも妹でも娘でもありえない存在」と、空欄直後の「家族のアナロジーをどうも適用しにくい存在」はほぼ同じことをいう言いかえになっています。「アナロジー」が似たものを類推すること、類比（対比ではなく）という意味だとわからなくても、「親～妻～姉～妹～娘」という表現と「家族」が言いかえになっていることはわかりますね。また、「～でもありえない存在」と「～適用しにくい存在」とが言いかえということもヒントになります。長い文章も、比較を交えた言いかえの連続であることをこのベーシック講座で学びましたね。したがって、空欄の接続語は⑤の「つまり」となります。このほか、選択肢にはありませんが、〝すなわち・いわば〟もこの仲間です。

Ｃ　今度は空欄の前後が対比・逆接の関係になっています。つまり「女性が化粧しているところをのぞくというのは、失礼千万なことである。のぞかれていることに気づけば、彼女はとたんに冷たいまなざしをわたしに向け返したことだろう」と前フリしておいて、空欄の後「おかしなことに、妙に居心地わるくなったのはわたしのほうだった」で打ち消して、乗り越えています。気分が悪くなったのは「彼女」ではなく「わたし」のほうだぞということです。したがって②の「けれども」が正解です。この逆接の接続語の仲間には〝だが・しかし〟などがあります。

問２《傍線部説明・語彙力・選択肢》

傍線部直前にあるように「短い刷毛やら薄っぺらいケースやら金属製のスティックのようなもの」などたくさんの道具を使うことや、傍線部直後の「メイクというのはこんなに複雑なものか」という驚きの感想、「化粧の一部始終」という表現、メイク完了後の「くっきりと鮮やかな別人の顔」という表現から、「入念」が、心を一生懸命に傾けた、手抜かりのないものであることがわかります。したがって、②の「集中して細部まで気を配る様子」が正解です。スーツを着た若い男性でも（いや若くない人でも）、電車内でスマホやタブレットでゲームに一心不乱に打ち込んでいる人がいますよね。鬼気(きき)迫るほどの集中力！　その集中力をビジネスで使えよ、とか教養を高めたらどうですか、とか思ってしまうほどですが、余計なお世話ですね。

他の選択肢を吟味してみます。①は「非常に速く行為を進める様子」とありますが、速さは問題ではありません。むしろじっ

くりです。正しい対比喪失の誤りです。③は「周りのことを強く意識する様子」としていますが、しらじらしーい間違いです。まるっきり周りや他者が目に入っていませんから。対比混乱の誤りです。④の「自らの技巧を自慢する様子」は笑えます（今回の問題や選択肢は、私＝小柴大輔がつくっているのですが）。〝見よ、このマスカラを盛るテクニックを！〟〝これが、ファンデーションを自然に見せるウラ技だ！〟とかやってるわけないでしょ。ともあれ、他者の目を気にしている点では、対比混乱の誤りです。

問３《傍線部説明・語彙力・選択肢》

「辟易」は、相手に圧倒されてたじろぐこと、また〝あーあ、やれやれ、見てらんない〟と非常にいやな気分になることです。喜怒哀楽でいうと「怒」です。③の「うんざりしていやな気分になること」が正解です。①の「傷ついて悲しい気持ちになること」では「哀」ですね。間違いです。②の「相手を称賛したい気持ちになること」は「喜」、④の「楽しく愉快な気持ちになること」は「楽」で、それぞれ違う感情ですね。さて、本文では、電車内で化粧することについて「お行儀のわるさ」に気分を害しているのではありません。では何に対してか、はあとに書かれています。それは「恥」を知らないことに対して、です。

問４《傍線部説明・全体の内容理解・選択肢》

本来、他者が「第一の鏡」です。他者の目を通して自分を知る、自分を整えることが大事だというのが筆者の見解といえます。それなのに、地下鉄でコンパクト（自分を見るための小さな手鏡）を見て化粧していた女性には、他者という鏡はなかった。さて筆者が「どきりとした」のは、親睦の食事の席で熟睡してしまったじぶんの行為も同じだと思い当たったからです。「彼女の場合と同じように、このときわたしもまた」という表現がきわめて大事です。じぶんも彼女も羞恥心を欠いていたという気づきに「どきりとした」のです。

そうすると、③の「親睦会で熟睡した自分の行為と地下鉄で化粧した若い女性の行為が、羞恥心を欠いている点で同じと気づいたから」が正解です。

他の選択肢を吟味してみます。①の「徹夜のあとの親睦の食事の席で一時間近くも熟睡した行為が、他者の目を欠いた恥ずか

しいものと気づいたから」では、地下鉄の女性が書かれておらず、「わたし」だけです。こういう間違いを、部分的指摘の誤りといいます。②の「地下鉄の車内で化粧をしていた若い女性に対して居心地わるい思いをした理由が、今になって突然理解できたたから」も同様に部分的指摘の誤りです。今度は「わたし」の失敗を書かず、若い女性の話だけになってしまいました。

④の「親睦会の食事の席にもかかわらず、じぶんの裸体をおしげもなくさらしたことが今になって悔やまれるから」は、どうでしょう。これでは、宴会で本当に裸になって破廉恥（はれんち）な芸でもしたかのようです。「見苦しい裸」はいわば比喩です。ほんとに脱いでいるわけではありません。人前で寝てしまうという失態を「裸」と表現しているのです。こういう間違いを、比喩を文字通りに解釈した誤り、あるいは物理的スリカエの誤りと呼びます。

問５《空欄補充・内容理解・選択肢》

他者の目に対して恥ずかしいと思う心を羞恥心といいます。マックス・シェーラーは、人間はこうした心をもともと持っているという意味で「人間の羞恥心を《天然の［F］》と呼んだ」のです。一方それがないと「見苦しい裸」というわけですから、①の「衣装」と決まります。〝衣装↔裸〟という対比です。⑤「裸体」では、対比混乱の誤りになります。その他、②「じぶん」、③「友人」、④「仮面」では、先の対比からズレます。正しい対比喪失の誤りです。

模範解答

問１　Ａ＝⑤　Ｂ＝②　問２＝②　問３＝③　問４＝③　問５＝①

復習問題解答

復習問題　第一講　模範解答

（ア）②　（イ）③　（ウ）①　（エ）⑤　（オ）④
（カ）①　（キ）②　（ク）⑤　（ケ）③　（コ）③

解答漢字一覧

（ア）鑑賞　（イ）圧倒　（ウ）絶対　（エ）世界観　（オ）飛躍
（カ）創造　（キ）既成　（ク）緊張　（ケ）強要　（コ）静物画

復習問題　第二講　模範解答

（ア）④　（イ）③　（ウ）②　（エ）⑤　（オ）①
（カ）④　（キ）②　（ク）⑤　（ケ）③　（コ）⑤

解答漢字一覧

（ア）発想　（イ）判断　（ウ）規範　（エ）抵抗　（オ）感触
（カ）単純　（キ）媒体　（ク）風俗　（ケ）対照　（コ）統制

復習問題　第三講　模範解答

（ア）②　（イ）①　（ウ）②　（エ）⑤　（オ）④
（カ）④　（キ）①　（ク）③　（ケ）③　（コ）②

解答漢字一覧

（ア）到着　（イ）無防備　（ウ）破棄　（エ）衝突　（オ）犯罪
（カ）強烈　（キ）感激　（ク）重責　（ケ）畏敬　（コ）擬似

復習問題　第四講　模範解答

（ア）⑤　（イ）③　（ウ）②　（エ）②　（オ）④
（カ）③　（キ）②　（ク）④　（ケ）③　（コ）①

解答漢字一覧

（ア）頑丈　（イ）感傷　（ウ）無骨　（エ）無邪気　（オ）影響
（カ）被写体　（キ）対象　（ク）構図　（ケ）閉鎖　（コ）克明

復習問題　第五講　模範解答

（ア）②　（イ）②　（ウ）④　（エ）⑤　（オ）①
（カ）②　（キ）①　（ク）④　（ケ）③　（コ）②

解答漢字一覧

（ア）嫌悪　（イ）好奇心　（ウ）臆病　（エ）競争　（オ）繁栄
（カ）挑戦　（キ）孤独　（ク）劣等感　（ケ）過程　（コ）積極

復習問題　第六講　模範解答

（ア）③　（イ）③　（ウ）①　（エ）②　（オ）④
（カ）②　（キ）②　（ク）⑤　（ケ）①　（コ）③

解答漢字一覧

（ア）真剣　（イ）悲壮　（ウ）歓喜　（エ）回顧展　（オ）均衡
（カ）経過　（キ）損傷　（ク）捕捉　（ケ）帰納　（コ）停滞

復習問題　第七講　模範解答

（ア）④　（イ）②　（ウ）①　（エ）①　（オ）④
（カ）④　（キ）②　（ク）⑤　（ケ）②　（コ）③

解答漢字一覧

（ア）師匠　（イ）浸透　（ウ）負荷　（エ）報酬　（オ）理屈
（カ）根拠　（キ）転覆　（ク）簡潔　（ケ）唐突　（コ）面倒

復習問題　第八講　模範解答

（ア）④　（イ）①　（ウ）①　（エ）⑤　（オ）②
（カ）①　（キ）②　（ク）③　（ケ）③　（コ）⑤

解答漢字一覧

（ア）入念　（イ）化粧　（ウ）行儀　（エ）服装　（オ）親睦
（カ）羞恥心　（キ）徹夜　（ク）居心地　（ケ）解釈　（コ）対象

Ⓒ RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。